

令和3年度 事業報告書



社会福祉法人 相模原市社会福祉協議会

目 次

令和3年度 事業実施概要	ページ 1 ~ 3
--------------	--------------

実施事業報告	4 ~ 79
--------	--------

①法人運営事業

事業名	ページ
1 一般会員の加入促進	6
2 理事会等の開催	
3 苦情解決事業	11
4 事務局の運営	12
5 共同募金会相模原市支会の運営	14
6 相模原市民生委員児童委員協議会の運営支援	15
7 相模原市地区社会福祉協議会の運営支援	16
8 部会活動推進事業	
9 課題別検討委員会の開催	17
10 福祉のしごと・魅力発信事業	
11 広報紙社協さがみはら「みんないいひと」の発行	
12 相模原市社会福祉大会「市民みんないいひとの日」の開催	18
13 賛助会員募集事業	19
14 録音・点字版社協さがみはらの発行	
15 マスコットキャラクターを活用した PR	
16 寄付促進推進事業	20

②地域福祉推進事業

事業名	ページ
1 地区社協情報コーナーの設置	21
2 福祉情報ネットワーク推進事業	
3 地域の支えあい応援事業(地域福祉推進員の設置)	
4 地域の支えあい応援事業(地域福祉支援員の設置)	
5 地域の支えあい応援事業(賛助会員会費の配分)	
6 地域の支えあい応援事業(サロン活動支援事業)	
7 福祉コミュニティ形成事業	22
8 交通遺児援護事業	26
9 南区地域福祉交流라운ジの運営	27
10 民生委員・児童委員研修事業	29
11 福祉教育活動推進事業	
12 ふれあいデイホーム事業	31
13 インターネット等活用福祉情報提供事業	32
14 地域の支えあい応援事業(地区社協育成費補助金)	
15 災害見舞金の支給	
16 就職支度費等一時給付事業(生活困窮者世帯就職活動応援事業)	33
17 食料品等緊急一時給付事業	
18 生活困窮者支援団体応援事業	
19 子ども健やか育成事業	34
20 子どもの居場所創設サポート事業	
21 市民活動育成支援事業	37
22 ボランティアセンター運営事業	38

事業名	ページ
2 3 いるかバンクの運営	40
2 4 防災ボランティア推進事業	41
2 5 ささえあいセンターの運営	42
2 6 ボランティア協会活動助成	44
2 7 地区住民相談支援活動推進事業	
2 8 生活支援体制整備事業	48
2 9 女性のつながりサポート事業	53

③あんしんセンター事業

事業名	ページ
1 法人後見事業	56
2 日常生活自立支援事業	57
3 成年後見制度利用促進事業	59
4 市民後見人養成事業	62
5 身元保証・死後事務支援に向けた取組について	64

④在宅福祉推進事業

事業名	ページ
1 ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業	65
2 福祉用具無料貸出事業	66
3 ファミリー・サポート・センター事業	
4 生活福祉資金の貸付事務	69
5 生活資金一時貸付事業	
6 要援護世帯生活資金貸付事業	70
7 ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業	71
8 社会福祉事業振興資金貸付事業	

⑤住民参加推進事業

事業名	ページ
1 ふれあいサービス(有料家事援助サービス)事業	73
2 要介護認定調査事業	74
3 介護支援ボランティア事業	
4 福祉従事者メンタルヘルス相談事業	75

⑥市民福祉会館運営事業

事業名	ページ
1 あじさい会館管理運営事業	76
2 あじさい会館南分室(南保健福祉センター内)	78
3 あじさい会館緑分室(緑区合同庁舎内)	79

⑦収益事業

事業名	ページ
1 飲料水等販売・自動販売機等運営事業	79

令和3年度 事業実施概要

1 はじめに

「第9次相模原市社会福祉協議会地域福祉活動計画」（令和2年度～令和5年度）」の実現に向け、多種多様な主体が連携・協働し、地域にある身近な「困りごと」を受け止め、解決に向けた仕組みづくりを進めていますが、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、「社会的な孤立の深刻化」「失業・減収した人の増加」「ひきこもりなどの複合的な課題の表面化」など、地域にある様々な生活課題が顕在化してきました。

このような状況の中、コミュニティソーシャルワーカーによる個別支援や子ども・若者の居場所づくりに取り組む市民福祉活動団体への相談支援、女性のつながりサポート事業による相談会の開催など、本会の取組を通じ、新たな生活課題の把握に努め、地域住民の皆様をはじめ企業・法人、社会福祉施設等との連携により解決に向けた取組を進めました。また、制度の狭間となる課題の解決に向け、関係諸団体とのネットワークの構築により、仕組みづくりを進めました。

2 重点的な取組

（1）小地域の支えあい活動を促進

地区社協や自治会、地区民児協、老人会、地域包括支援センター等との連携、協力のもと、地域にある「困りごと」を持ち寄り、地域を基盤とする支えあい活動の創設等に取り組みました。

また、コロナ禍において、感染症拡大防止など創意工夫により取り組む小地域の支えあい活動の実践事例をまとめ、ホームページ等を通じて広く市民に発信しました。

福祉コミュニティ形成事業補助金を活用する
主な「小地域の支えあい活動」の実施及び検討状況

居場所	見守り活動	個別ニーズ 対応	相談窓口	地域活動拠点
17地区	4地区	12地区	11地区	8地区

（2）「子ども・若者支援活動団体」相互の連携・協働を促進

福祉的な「困りごと」を抱える子ども・若者の居場所や社会参加の場づくりを目的に、子ども・若者支援団体への助成金交付、相談支援を通じ、各団体が抱える「困りごと」を把握し、団体相互が「困りごと」を共有する場づくり、解決に向けた連携・協働のきっかけづくりを進めました。

子ども・若者を支援する市民福祉活動団体への助成実績

助成事業	助成金交付団体	助成金交付額
子ども健やか育成事業	31団体	6, 349, 839円
生活困窮者支援団体応援事業	5団体	1, 142, 949円
市民活動育成支援事業	16団体	1, 461, 049円

(3) 高齢者・障がい者等の権利擁護の総合的な支援事業を推進

ア 判断能力が不十分な高齢者や障がいのある方が地域で安心して暮らせるよう、ご本人との契約に基づき、福祉サービスの利用援助を行う「日常生活自立支援事業」の充実を図るとともに、新たに相模原市より、「中核機関」を受託し、権利擁護支援を必要とする方を適切な支援につなげるため、各関係機関や専門職団体等で構成された「地域連携ネットワーク」の構築など、成年後見制度の利用促進に取り組みました。

日常生活自立支援事業実利用者数

認知症高齢者等	障がい者			その他	合 計
	知的	精神	身体		
73人	31人	73人	10人	1人	188人

成年後見等受任実利用者数 (単位：人)

認知症高齢者等	障がい者		合 計
	知的	精神	
11人	9人	6人	26人

主な成年後見制度利用促進事業の実績

成年後見一般相談（職員対応）の開催	415件
成年後見専門相談（司法書士等対応）の開催	月4回（相談件数52人）
成年後見制度等説明会への講師派遣	5件
成年後見制度無料相談会の開催	年3回（参加人数19人）

イ 身寄りがない、あるいは、家族や親族からの支援が受けにくいなど身元保証人等がいない高齢者等に対する入院、施設入所に際しての支援、また、本人の死亡時の埋葬や家財の処分等を支援するサービスの構築に向けた検討に取り組みました。

(4) 寄付等を通じた市民・企業等の福祉活動への参加を促進

子ども・若者の居場所づくり等を進める市民福祉活動団体の取組成果や子ども・若者からの「声」を本会広報紙等で紹介するなど寄付循環の仕組みづくりを進めました。

また、企業・法人の持ち味等を活かして取り組む参加メニュー等の周知を図った。

(5) 本会の発展に向けた経営基盤の強化

「強化発展計画（令和3年度～令和5年度）」に基づき、「市社協のファンを増やす 経営の安定」について、本会職員によるワーキンググループで検討を重ね、必要な情報が必要な世代に届くよう情報提供媒体の活用方法を見直すとともに、新たにインスタグラムを開始しました。

また、若い世代の方々に本会を身近に感じてもらうことを目的にマスコットキャラクター「にこまる」を活用したLINEスタンプの販売を行いました。

(6) その他

相模原市より女性のつながりサポート事業を受託し、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、社会とのつながりが希薄化する中で孤立・孤独や経済的不安等の悩みを抱える女性を対象として、生理用品等の配布と合わせ、臨時・随時相談会を実施しました。また、コロナ禍で女性が抱える「困りごと」の把握を目的にアンケートを実施しました。

臨時・随時相談会

相談形式	相談件数	アンケート 回答件数
臨時相談 (8回)	89件	534件
随時相談 (ホームページ含む)	29件	614件
合 計	118件	1,148件

生理用品の配布

配布形式	生理用品 配布か所	生理用品 配布件数
臨時相談会 (8回)	8会場	445件
本会事務所等	25か所	5,987件
合 計	33か所	6,432件

実 施 事 業 報 告

凡 例：事業名の次行右に財源名（括弧書き）及び執行済額を記載
補助 市・県社協補助金
共募 共同募金配分金
受託 市・県社協受託金
自主 自主財源（賛助会費、寄付金、事業収入等）

SDGs を踏まえた事業の推進

SDGs (Sustainable Development Goals) は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までに「持続可能でよりよい世界」を目指す国際目標で、17のゴールから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs の17のゴールは、社会的に弱い立場にある方々を含めて、一人ひとりを排除や孤独から守り、社会（地域社会）の一員として取り組み、支えあう考え方です。

日本では、豊かで活力のある「誰一人取り残さない」社会を実現するために、2020年から10年間にわたり、目標達成に向けて積極的に取り組んでいくことが明言されています。

本会では、その目標達成を意識し、「さがみはら SDGs パートナー制度」に登録し、地域にある「困りごと」への対応や市民による支えあい活動の推進等に取り組んでいきます。



《本事業と特に関連の深い目標》



※相模原市社会福祉協議会は、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組を進めています。

① 法人運営事業

1 一般会員の加入促進

一般会員内訳

種 別	会員区分	会員数	令和3年度 新規加入数
第1種会員	地区社会福祉協議会	22	—
第2種会員	地区自治会連合会	22	—
第3種会員	地区民生委員児童委員協議会	22	—
第4種会員	ボランティア・市民活動を行う団体	16	—
第5種会員	高齢者福祉を目的とする施設及び団体	63	—
第6種会員	障がい福祉を目的とする施設及び団体	99	—
第7種会員	児童福祉を目的とする施設及び団体	92	—
第8種会員	学識経験者	7	—
第9種会員	関係行政機関	4	—
合 計		347	—

2 理事会等の開催

(自主) 573,607 円

組織体制

役員等	人 数
理 事	13 人
監 事	2 人
評議員	20 人

理事会の開催（6回）

開催月日	出席者	内 容	
<第1回> 令和3年6月10日（木）	理事 11 人 監事 2 人	議案第1号	令和2年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事業報告及び決算並びに監査報告について
		議案第2号	一般会員の推薦について
		議案第3号	評議員選任委員会委員の選任について
		議案第4号	評議員選任候補者の同意について
		議案第5号	評議員会の招集について
		報告第1号	専決処分の報告について（令和2年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算（第3号））
		報告第2号	専決処分の報告について（令和2年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会公益事業区分補正予算（第2号））
		報告第3号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員就業規程の一部を改正する規程）
		報告第4号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の一部を改正する規程）
		報告第5号	部会等における理事及び監事の推薦結果について
		報告第6号	令和2年度資金運用結果について
<第2回> 令和3年6月28日（月）	理事 12 人 監事 2 人	議案第6号	会長、副会長及び常務理事の選定について
		議案第7号	強化発展計画の策定について
<第3回> 令和3年9月17日（金）	決議の省略 理事 13 人 監事 2 人	議案第8号	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会顕彰規程に基づく令和3年度顕彰者について
		議案第9号	女性のつながりサポート事業の受託について
		議案第10号	令和3年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算（第2号）について
		議案第11号	評議員会の招集について
		報告第7号	専決処分について（令和3年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算（第1号））
		報告第8号	成年後見制度利用促進事業の進捗状況について

<第4回> 令和3年11月25日(木)	理事 13 人 監事 2 人	協議題(1) 日常生活自立支援事業の見直し課題について 協議題(2) 身元保証・死後事務支援に向けた取組について 協議題(3) 女性のつながりサポート事業の実施状況について 協議題(4) 広報媒体(SNS等)の活用等について ア インスタグラム(Instagram)の活用による 情報提供 イ LINEスタンプによる社協周知 報告第9号 会長及び常務理事の職務の執行状況について
<第5回> 令和4年1月27日(木)	決議の省略 理事 13 人 監事 2 人	議案第12号 重層的支援体制整備モデル事業への協力について 議案第13号 障害支援区分に係る認定調査業務の受託について 議案第14号 あんしんセンター生活支援員(登録型)の導入について 議案第15号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の一部を改正する規程について 議案第16号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員給与規程の一部を改正する規程について 議案第17号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事務局の組織及び職制に関する規程の一部を改正する規程について 議案第18号 令和4年度あじさい基金等資金運用計画の策定について 議案第19号 評議員会の招集について
<第6回> 令和4年3月15日(火)	理事 10 人 監事 2 人	議案第20号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会定款の変更について 議案第21号 令和4年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事業計画及び予算について 議案第22号 生活資金一時貸付けの償還免除について 議案第23号 役員等賠償責任保険契約について 議案第24号 事務局長の選任について 議案第25号 評議員会の招集について 報告第10号 会長及び常務理事の職務の執行状況について 報告第11号 専決処分について(社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員就業規程の全部を改正する規程)

		報告第 12 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会嘱託職員就業規程の全部を改正する規程）
		報告第 13 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の全部を改正する規程）
		報告第 14 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員の育児休業等に関する規程の一部を改正する規程）
		報告第 15 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会嘱託職員及び非常勤職員等の育児・介護休業等に関する規程の一部を改正する規程）

監査の実施（1 回）

開催月日	出席者	内 容
令和 3 年 5 月 24 日（月）	監 事 2 人	監査の対象 令和 2 年度に執行した事業及び財産に関する収支書類

評議員会の開催（4 回）

開催月日	出席者	内 容
＜第 1 回＞ 令和 3 年 6 月 28 日（月）	評議員 27 人	議案第 1 号 令和 2 年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事業報告及び決算並びに監査報告について 議案第 2 号 役員の選任について 報告第 1 号 専決処分について（令和 2 年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算（第 3 号）） 報告第 2 号 専決処分について（令和 2 年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会公益事業区分補正予算（第 2 号）） 報告第 3 号 専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員就業規程の一部を改正する規程） 報告第 4 号 専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の一部を改正する規程） 報告第 5 号 令和 2 年度資金運用結果について 議案第 3 号 女性のつながりサポート事業の受託について

<第2回> 令和3年9月30日(木)	決議の省略 評議員20人	議案第4号 令和3年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算(第2号)について 報告第6号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会令和3年度顕彰者について 報告第7号 専決処分の報告について(令和3年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会社会福祉事業区分補正予算(第1号)) 報告第8号 成年後見制度利用促進事業の進捗状況について
<第3回> 令和4年2月10日(木)	決議の省略 評議員20人	議案第5号 重層的支援体制整備モデル事業への協力について 議案第6号 障害支援区分に係る認定調査業務の受託について 議案第7号 あんしんセンター生活支援員(登録型)の導入について 議案第8号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の一部を改正する規程について 議案第9号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会給与規程の一部を改正する規程について 議案第10号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事務局の組織及び職制の一部を改正する規程について
<第4回> 令和4年3月28日(月)	評議員19人	議案第11号 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会定款の変更について 議案第12号 令和4年度社会福祉法人相模原市社会福祉協議会事業計画及び予算について 議案第13号 生活資金一時貸付けの償還免除について 報告第9号 会長及び常務理事の職務の執行状況について 報告第10号 役員等賠償責任保険契約について 報告第11号 事務局長選任結果について 報告第12号 専決処分について(社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員就業規程の全部を改正する規程) 報告第13号 専決処分について(社会福祉法人相模原市社会福祉協議会嘱託職員就業規程の全部を改正する規程) 報告第14号 専決処分について(社会福祉法人相模原市社会福祉協議会非常勤職員等就業規程の全部を改正する規程)

		報告第 15 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会職員の育児休業等に関する規程の一部を改正する規程）
		報告第 16 号	専決処分について（社会福祉法人相模原市社会福祉協議会嘱託職員及び非常勤職員等の育児・介護休業等に関する規程の一部を改正する規程）

3 苦情解決事業

（自主）9,600 円

提供するサービスや事業に対する市民からの苦情、要望等に適切に対応した。

苦情受付内容

事業名	件 数
市民福祉会館管理運営事業	2 件
法人運営事業	1 件
生活福祉資金貸付事業	3 件
地区住民相談支援活動事業	1 件
ボランティアセンター運営事業	1 件
ふれあいデイホーム事業	1 件
合 計	9 件

4 事務局の運営

(補助・自主) 421,016,236 円

1) 事務局運営

市民福祉活動支援、権利擁護に係る利用者支援及び関係機関・団体とのネットワーク構築に必要な個別支援、連絡調整等に係る人員の確保に向け、事務事業の見直しを進めた。

職員体制

職 名	人 数
固 有 職 員	51 人
嘱 託 職 員	6 人
非 常 勤 職 員	163 人
合 計	220 人

事務局体制

事務局
○総務課 企画財政係、総務係、あじさい会館
○福祉推進課 地域支援係、市民活動係
○さがみはら成年後見・あんしんセンター
○緑区事務所 城山地域事務所 津久井地域事務所 相模湖地域事務所 藤野地域事務所
○南区事務所

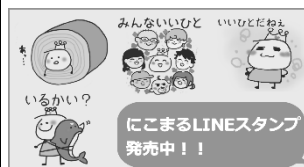
職員研修の実施

開催月日	参 加	内 容
令和 3 年 4 月 19 日 (月)	固 有 職 員	職員研修会兼 C S W 全体研修 (基礎研修) ○講義・演習 「地域共生社会と社協の地域づくり」 講師 東京都立大学 室田信一准教授 「地域共生社会」の実現に向けて、社協が果たすべき役割や 「社協職員」「C S W」として必要な視点・考え方を共有した。 ○「第 9 次地域福祉活動計画の策定の背景と推進に向けて」 説明 市社協 総務課企画財政係 職員 ※ZOOM 対応によるオンラインで実施

2) 本会強化発展計画に基づいた経営基盤の強化

本会強化発展計画（令和3年度～令和5年度）に基づき「市社協のファンを増やす 経営の安定」について、本会職員によるワーキンググループで情報提供媒体の活用方法を検討した。

市社協ファンを増やそうワーキング	
会議開催	令和3年8月～令和4年3月 6回開催
検討事項 及び 取り組み	①若い世代に向けた、SNSによる情報媒体の活用方法について Instagramの設置（令和3年12月から開始） ②親しみやすい「にこまる」キャラクターを通じて市社協を知ってもらう にこまる LINE スタンプの作成（令和4年1月から販売）



3) 情報の公開、事業運営の透明性の確保

理事会や評議員会の議事録等の経営情報や、事業報告・決算及び事業計画・予算等運営状況等の情報をホームページや広報紙等を通じて公開し、事業運営の透明性を図った。

4) 寄付金の受入れ

寄付金の受入れ状況

区 分	件 数	金 額
社会福祉のために	95 件	3,571,955 円
交通遺児のために	6 件	323,696 円
障がい福祉のために	1 件	80,878 円
子ども健やか育成基金のために	6 件	590,000 円
その他	10 件	24,000 円
合 計	118 件	4,590,529 円

5) 寄付物品の受入れ

寄付物品の受入れ状況

区 分	個 人	団 体	合 計
日 用 品	12 件	8 件	20 件
紙 お む つ	11 件	1 件	11 件
福 祉 用 具 等	1 件	2 件	3 件
雑 貨 等	3 件	1 件	3 件
コロナ感染予防用品	4 件	1 件	5 件
食 料 品	4 件	3 件	7 件
衣 類 等	5 件	2 件	7 件
そ の 他	2 件	2 件	4 件
合 計	42 件	18 件	60 件

5 共同募金会相模原市支会の運営

共同募金の募集・受配実績

区 分	実績額	県共同募金会からの受配額
赤い羽根募金	29,782,852 円	14,157,695 円
年末たすけあい募金	13,937,106 円	13,450,323 円
合 計	43,719,958 円	27,608,018 円

募金種別の募集実績額内訳

区 分	金 額
戸別募金	38,934,907 円
街頭募金	527,351 円
法人募金	2,009,333 円
学校校内募金	552,707 円
職域募金	838,302 円
イベント募金	24,022 円
その他	833,336 円
合 計	43,719,958 円

受配額の内訳

内 容	金 額
社会福祉施設の支援のために	3,460,000 円
在宅福祉サービス団体等の支援のために	1,200,000 円
本会の事業推進のために	5,807,695 円
年末たすけあい配分事業等に	13,450,323 円
災害見舞金の支給	120,000 円
市支会運営費のために	3,570,000 円
合 計	27,608,018 円

合同会議の開催

実施概要

開催月日	内 容
令和3年4月7日(水) (書 面 評 決)	・ 令和2年度共同募金運動実績報告
令和3年9月3日(金) (書 面 評 決)	・ 令和3年度共同募金運動実施計画(案)について

6 相模原市民生委員児童委員協議会の運営支援

本会に相模原市民生委員児童委員協議会の事務局を置き、民生委員・児童委員の活動支援を行った。

各種会議開催の支援

会議名	回 数
総 会	1 回
常任理事会	12 回
役員会	12 回
理事会	1 回

専門委員会等開催の支援

委員会名	回 数
地域福祉推進委員会	2 回
児童・子育て支援委員会	2 回
主任児童委員連絡会	3 回
広報委員会	4 回
機関紙編集会議	6 回
研修委員会	2 回

研修会開催の支援

開催月日	内 容
令和3年10月5日（火）～ 令和4年3月31日（木）	全体研修会 地域共生社会と民生委員・児童委員活動 ～ウィズ・コロナの時代に～ ※各地区定例会等において、全民児連のDVDによる実施
令和3年11月10日（水）～ 令和4年2月28日（月）	中堅委員等研修会 “共育と協働”の大切さを語ろう！ ※動画配信による個別受講で実施
令和3年11月30日（火）	主任児童委員研修会Ⅰ スクールソーシャルワーカーと地域との連携について
令和3年12月22日（水）	会長・副会長研修会 “地域の灯台”をめざそう！ ※ZOOM対応によりオンラインで研修を実施
令和4年1月6日（木）	常任理事研修会 関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会分科会 動画視聴
令和4年3月3日（木）	主任児童委員研修会Ⅱ 主任児童委員活動活性化と児童委員との連携強化について 主任児童委員と児童相談所の連携について ※資料配布による個別受講で実施
令和4年3月29日（火）	新任民生委員・児童委員研修会 民生委員・児童委員活動について

7 相模原市地区社会福祉協議会の運営支援

相模原市地区社会福祉協議会の事務局として、地区社会福祉協議会の活動支援を行った。

各種会議開催の支援

会議名	回 数
全体会	4 回
役員会	7 回
緑区連絡会	3 回
中央区連絡会	5 回
南区連絡会	4 回

各種部会開催の支援

会議名	回 数
企画部会	3 回
研修部会	2 回
広報部会	4 回

市長・行政との意見交換等の支援

行政等名称	内 容
市 長	・市長との面談について（役員改選により表敬訪問）
地 域 包 括 ケ ア 推 進 課	・地域づくり部会と福祉コミュニティ形成事業について ・地域づくり部会の活動費の使い方について ・福祉コミュニティ形成事業について ・事務局体制の強化について

8 部会活動推進事業

（自主）134,173 円

1）種別部会の開催

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、種別部会を開催せず、地域福祉推進に関する情報提供等を行った。

2）特別部会の開催

高齢者福祉施設部会

事業を経営する社会福祉法人により構成し、地域福祉の推進及び神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会（県老施協）等との連携を目的に開催した。

○ 神奈川県社会福祉協議会老人福祉施設協議会との連携

- ・神奈川県老人福祉施設協議会委員会への参加（委員5人）
- ・関東ブロック老人福祉施設研究総会・かながわ高齢者福祉研究大会合同大会の企画・運営支援（実行委員会委員10人）

○ 各種別施設協議会等との連携

- ・全国老人福祉施設協議会
- ・関東ブロック老人福祉施設連絡協議会
- ・首都圏高齢者福祉協議会

9 課題別検討委員会の開催

(自主) 119,312 円

「第9次地域福祉活動計画」に基づき、制度の狭間となる地域福祉課題の解決に向け、関係諸団体や関係機関等と連携し、支援の在り方や新たな仕組みの構築に向けた検討を行った。

○身元保証・死後事務支援等検討委員会の設置 (64 ページ参照)

10 福祉のしごと・魅力発信事業

福祉教育のカリキュラムの1つに中学生を対象として福祉の仕事の魅力を伝え、将来の職業の選択肢としての意識醸成を目的に取り組んだ。

参加者数：24人

活動講師数：1人(高齢者福祉施設：1人)

実施校：1校(中学校：1校)



11 広報紙社協さがみはら「みんないいひと」の発行

(自主) 6,981,803 円

1) 全市版の発行

年3回(4月1日、8月1日、12月1日 各 175,000部発行) タブロイド版 新聞折込

社協さがみはら「みんないいひと」全市版の発行

号数等		内 容
239号	令和3年4月号	地域の”つながり”を守り続ける ～コロナ禍における新しい地域活動～ ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、感染防止対策を行い、新しい生活様式に合わせた各地区の取組の紹介
240号	令和3年8月号	“子どもの未来”を作る応援をしませんか！ ・市民活動団体とのパートナーシップを通じて「子ども食堂」や「学習支援」などの子どもたちの成長を応援する活動支援の紹介
241号	令和3年12月号	福祉マンガ「ごめんなさい」秋竜山 ・市内在住の秋竜山先生の福祉マンガの紹介と、マンガの吹き出しに入るセリフの募集

2) 区版の発行

年3回（6月24日、9月30日、2月10日 各 139,500部発行）

※ 区版は、(株)タウンニュース社発行の「タウンニュース」（緑区・中央区・南区版）の各1ページに掲載

社協さがみはら「みんないいひと」区版の発行

号数等		内 容
第 34号	令和3年6月24日号	《緑区だより》 福祉のまちづくりを応援！ ～地域の支えあい活動は、賛助会費によって支えられています～ 《中央区だより》 福祉のまちづくりを応援！ ～地域の支えあい活動は、賛助会費によって支えられています～ 《南区だより》 コロナ禍における地域の“つながり”を求めて ～地域の支えあい活動は、賛助会費によって支えられています～
第 35号	令和3年9月30日号	《緑区だより》 つながりをたやさない ～コロナ禍でのつながりづくり～ 《中央区だより》 つながりをたやさない ～コロナ禍でのつながりづくり～ 《南区だより》 つながりをたやさない ～コロナ禍でのつながりづくり～
第 36号	令和4年2月10日号	《緑区・中央区・南区だより》 待っている人が必ずいます！ ～ボランティア活動を始めてみませんか～

12 相模原市社会福祉大会「市民みんないいひとの日」の開催

（自主）941,039円

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、第52回相模原市社会福祉大会の開催は、中止とし、顕彰者には、表彰状や大会記念品等を郵送した。

（顕彰者：特別表彰、一般表彰、感謝表彰を受賞する206の個人・団体等）

13 賛助会員募集事業

(自主) 2,298,404 円

市内 22 地区社会福祉協議会を通じて地区自治会連合会、地区民生委員児童委員協議会の協力により募集を行った。

一般賛助会員募集実績

募集実績	うち地区配分額
24,828,568 円	12,414,286 円

法人賛助会員募集実績

会員数	金 額
90 法人	1,390,000 円

募集推進会議の開催

開催月日	内 容
令和 3 年 4 月 7 日 (水) (書 面 評 決)	・社協さがみはら、地域情報紙等を活用した募集案内及び募集結果等の市民周知 ・賛助会員募集 Q&A の自治会役員等募集協力者への配布 ・領収書等募集資材の作成

14 録音・点字版社協さがみはらの発行

(自主) 693,796 円

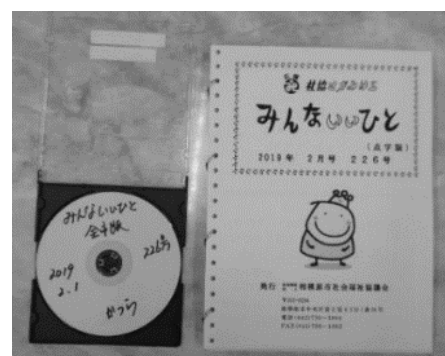
広報紙「みんないいひと」全市版(年 3 回)・区版(年 3 回)の録音版(CD・テープ)、点字版を発行した。

1) 録音版の発行

○ 利用者数:64 人 行政機関等:15 か所

2) 点字版の発行

○ 利用者数:17 人 行政機関等:15 か所



15 マスコットキャラクターを活用した PR

マスコットキャラクター「にこまる」を活用し、わかりやすく情報を発信するとともに、子どもや若い世代に本会に関心を持ってもらうことを目的に PR 活動を行った。

○ ブログ「にこまるの部屋」による情報発信

更新回数:42 回

○ にこまる LINE スタンプの作成 (令和 4 年 1 月から販売)

おつかれさまです



1 6 寄付促進推進事業

(自主) 87,756 円

企業・法人、市民からの寄付促進に向け、寄付金を活用した取組や成果の周知、企業・法人との連携による寄付付き商品の販売を行った。

1) 市民福祉活動団体の取組や成果を紹介

- 「子ども健やか育成基金」を財源として助成金を交付する子ども・若者支援団体の取組紹介
- コロナ禍における子どもの学習機会・居場所づくりの取組を紹介するとともに寄付への協力を呼びかけ



2) 企業との連携の促進

- 企業・法人に対して、社会福祉協議会の役割や事業を周知し、企業・法人の持ち味等を生かして取り組むメニューとして「人（ボランティア活動者）、物（物品寄付）、財源（地域福祉活動の財源寄付）」等の呼びかけを行った。

3) 寄付付き商品の販売

- 日本ハムマーケティング(株) 横浜営業所と連携し、お中元・お歳暮商品の売上の一部を社会に還元する活動として、「子ども健やか育成基金」への寄付を目的とした寄付付き商品を販売

② 地域福祉推進事業【社会福祉事業】**1 地区社協情報コーナーの設置**

あじさい会館 1 階と南保健福祉センター 1 階に専用の掲示板を設置し、22 地区社会福祉協議会の活動紹介を行った。

2 福祉情報ネットワーク推進事業

22 地区社会福祉協議会、22 地区民生委員児童委員協議会の事務局において、小地域の支えあい活動を支援するための情報収集・提供を行った。

また、地区事務局の運営強化を図るため、インターネットやタブレット端末の環境整備を進めた。

3 地域の支えあい応援事業（地域福祉推進員の設置）

（補助）90,738,781 円

22 地区に地域福祉推進員を配置し、地区社会福祉協議会及び地区民生委員児童委員協議会の事務支援を行うとともに、相談支援活動や福祉関係諸団体との連携等ネットワークの構築を図った。

4 地域の支えあい応援事業（地域福祉支援員の設置）

（補助・自主）21,261,215 円

19 地区に地域福祉支援員を配置し、地区社会福祉協議会及び地区民生委員児童委員協議会の事務支援を通じて活動の促進を図った。

5 地域の支えあい応援事業（賛助会員会費の配分）

（自主）12,414,286 円

地区社会福祉協議会の活動の充実・促進を図るため、地区で募集された一般賛助会費募集実績の 50%を 22 地区社会福祉協議会に配分した。

6 地域の支えあい応援事業（サロン活動支援事業）

身近な地域での高齢者や障がいのある方、子育て期の保護者等の仲間づくりの活動を支援した。

サロン把握数

種 別	サロン数
高齢者サロン	268 団体
子育てサロン	37 団体
障がい者サロン	8 団体
合 計	313 団体

1) サロン活動の促進

- サロンへのレクリエーション用具の貸出し
- ふれあい・いきいきサロンの状況を調査し、課題抽出及び関係者・一般市民への情報提供

2) 新規サロン立ち上げ支援

- 新規サロンの立ち上げの過程で、地区担当職員を中心に相談支援等を行った。

7 福祉コミュニティ形成事業

(補助) 8,054,532 円

22 地区で地区社会福祉協議会を中心に取り組まれる小地域の支えあい活動について、事業検討の場「地域福祉推進会議」の運営支援及び事業経費の助成により促進した。

22 地区の「福祉コミュニティ形成事業」主な取組

(単位：円)

	地区名	内 容	助成金額		
			基盤 整備費	事業 継続費	総 額
1	橋 本	○ 活動拠点の運営、交流の場づくり ・ ふれあいの家「ぬくもり」の管理・運営 定例活動として「ぬくもり喫茶」や「映画の日」 「手芸折り紙の日」「いきいき百歳体操」を部分実施 ※従来実施していた「麻雀の日」「将棋の日」 「子育てサロン」は、コロナ禍で活動休止	540,000	—	540,000
2	大 沢	○ 交流の場づくり ・ 大沢 comcom. com 会議 ・ こむこむ茶屋（上大島自治会館・古清水自治会館）の開催 ・ 健康マージャン（上大島自治会館・古清水自治会館）の開催 ・ 交流イベント「ドットこむ企画」 ※交流事業については、コロナ禍で一部活動休止。再開に向けて消毒薬等をを購入。	4,500	10,769	15,269

	地区名	内 容	助成金額		
			基盤 整備費	事業 継続費	総 額
3	城 山	○ 交流の場づくり ・ 「久保沢ふれあいカフェ」の実施 ・ サロンの状況などについて情報交換などを行なう、交流の場等の運営者による城山地区サロン等連絡会を実施 ・ 毎月1回「しろやまふれあい農園」の活動実施 収穫した野菜は子ども食堂等に配布 ○ 個別ニーズ対応 ・ 日常の困りごとを受け止めて解決する住民主体の活動「城山助けあい支えあいセンター」(愛称 あいあきセンター) の運営 ・ 相談日(毎週水曜日)の開設 ・ コーディネーター会議の開催(月1回)	61,935	260,000	321,935
4	津久井	○ 見守り活動 ・ 「小網ふれあいネットワーク」の運営 ・ 中央地域、三井名手地域での見守り活動実施 ○ 交流の場づくり ・ サロン活動の推進事業	65,000	260,000	325,000
5	相模湖	○ 交流の場づくり ・ いきいき百歳体操サロン支援 ・ 健康マージャンサロン支援 ・ 「サロン会場」個人宅提供者への経費助成 ○ 見守り活動 ・ 商店等による見守りの仕組み「みまもりネットさがみこ」の実施 ・ とっさの時のあんしんケース(救急医療情報キット)の配布・情報更新 ・ 赤ちゃんが生まれた世帯へのプレゼント配布、訪問事業「こんにちは赤ちゃん!さがみこ“ぬくもり”支援事業」の実施 ○ 個別ニーズ対応 ・ 住民相互の助けあいの仕組み「ちょこっとボランティア相模湖」の実施 ○ その他 ・ 子育て情報掲載「子育てマップ」の配布	33,000	260,000	293,000
6	藤 野	○ 交流の場づくり ・ コロナ禍で「たまり場(世代を超えた交流の場)」の多くは休止となったが、一部十分な感染予防をした上での活動について支援 ○ 個別ニーズ対応 ・ コロナ禍ではあったが、住民相互の助けあいの仕組み「おたがいさまネットふじの」を継続運営し、個別ニーズに対応 ・ サポーター交流・研修会を開催し、よりよい活動についてグループディスカッションの方法で協議 ・ コーディネーター会議開催	57,614	83,679	141,293

	地区名	内 容	助成金額		
			基盤 整備費	事業 継続費	総 額
7	小 山	○ 相談窓口・個別ニーズ対応 ・ 「おやま生活サポートセンター」の運営 依頼案件（実績 24 件） ・ 運営会議開催（年間 12 回） ○ 啓発活動 ・ 地区社協「ほほえみ」に NEWS コーナーを掲載 ・ 自治会回覧の地域情報誌に掲載 ・ ポスターを作成し自治会掲示板へ掲載 ・ マグネットステッカーを作成し敬老事業にて配布 (1,286 枚) ・ ボランティアスキルアップ研修会の開催	32,756	101,167	133,923
8	清 新	○ 個別ニーズ対応 ・ 「ちょこっとボランティアくらぶ」運営 (相談件数：40 件 活動件数：28 件) ・ ちょこボラミーティングの開催 ・ 登録者向け「ちょこボラ便り」発行 ○ 「シニアサポート活動（訪問型）」を実施（ごみ出し活動実績：延べ 216 名）	19,035	131,320	150,355
9	横 山	○ 交流の場づくりと地域活動拠点 ・ コミュニティよこやま「憩」拠点活動実施 (年間 72 回、参加人数延べ 208 人) ・ コミュニティしもくざわ「憩」新規拠点活動開始 (年間 3 回、参加人数延べ 21 人) ・ 清新中学校生徒による花壇の花植えを実施 ・ コミュニティよこやま「憩」大掃除実施 ・ 福祉コミュニティ部会会議開催（年間 4 回）	232,260	185,957	418,217
10	中 央	○ 交流の場づくり ・ 地区内 5 拠点（「ふれあいふじみ」、「ふれあいむらとみ」、「ふれあい相生」、「ふれあい相模原中央」、「ふれあいMYT（松が丘・弥栄・高根）」）での 三世代交流活動について、コロナ禍での在り方を 検討する機会を設け、話し合いを行った。 ※従来行っていた拠点活動の多くは休止 ・ コロナ禍でできる活動としてウォークラリー実 施。	—	45,363	45,363
11	星が丘	○ 交流の場づくり ・ 「いこいの広場」あらゆる世代の交流の場（地区 内 3 か所）の開催 ・ 「はやぶさ学習塾」による教員OB、民生委員・ 児童委員、自治会、子ども会との連携による学習 支援の実施 ○ 個別ニーズ対応 ・ 「ちょっと手伝い隊」ちょっとした困りごとを、 住民同士で支えあい、助けあえる有償ボランティ ア活動の実施	246,697	260,000	506,697

	地区名	内 容	助成金額		
			基盤 整備費	事業 継続費	総 額
12	光が丘	○ 交流の場づくり ・ 光が丘地区にぎわい処 (コロナ禍のためお弁当持ち帰り方式で週2回実施) ・ 上溝団地健康団地ホックリ屋の運営。シルバーカフェの実施(週1回) ○ 個別ニーズ対応 ・ 光が丘サポート隊の実施 ○ 相談窓口 ・ サポートセンターの運営(週3回) (相談受付、ボランティア派遣、担い手養成)	280,000	260,000	540,000
13	大野北	○ 交流の場づくり・相談窓口 ・ 「はやぶさカフェ大野北」について (1か所活動再開) ・ 「親子スペースたけのこの家」の立ち上げ (令和3年11月～毎月) ○ その他 ・ 「お出かけ・配達便利マップ」再編の検討	22,000	82,672	104,672
14	田 名	○ 相談窓口・個別ニーズ対応 ・ 「田名ボランティアセンター」運営 ・ コーディネーター、サポーター対象「勉強会」開催 ・ 「ボラセン通信」発行 ・ 住民交流の場の運営(和い輪い田名)	280,000	260,000	540,000
15	上 溝	○ 活動拠点・交流の場づくり ・ 「ぶらっと上溝」運営 ・ 感染症対策を講じ、健康マージャン、折り紙教室、だがし屋さん等を実施 ※従来実施していた「みんなの食堂」「こどもクッキング」、一般団体への部屋貸しは、コロナ禍で休止	540,000	—	540,000
16	大野中	○ 個別ニーズ対応 ・ 「おおのなかボランティアセンター」の運営 ・ 支援活動合計206件(ゴミ出し、買い物代行、通院付き添い、草刈り等) ・ 健康麻雀教室の開催 ・ 「ボラセンだより」の発行	325,441	211,352	536,793
17	大野南	○ 交流の場づくり ・ 高齢者サロンの普及推進、運営支援 ・ サロン推進委員会開催 ・ サロン運営者懇談会開催 ・ サロン通信発行 ・ 地区内のふれあい・いきいきサロン(地域サロン)運営助成	10,700	260,000	270,700
18	麻 溝	○ 個別ニーズ対応 ・ 「ボランティアセンターあさみぞ」運営 ・ 認知症サポーター養成講座を実施 ・ ボランティアスタッフ会議2回 ※従来実施していたボランティア交流会、視察等コロナ禍で中止	480,000	60,000	540,000

	地区名	内 容	助成金額		
			基盤 整備費	事業 継続費	総 額
19	新 磯	○ 見守り活動 ・ 「新磯見守りステーション」の検討 ・ 1対1の見守り体制ではなく、地域の実情に合った「見守り」について検討 ○ 個別ニーズ対応 ・ 「ちょこっとサポートしたい」の実施 ・ 高齢者や子育て世帯の日常生活でのちょっとした困りごとをすみやかにサポート	131,538	260,000	391,538
20	相模台	○ 活動拠点・交流の場づくり・個別ニーズ対応 ・ 「サポートセンター楽らく」運営 ・ 困りごと相談の受付とその解決策としての情報提供やサポーターの派遣の実施 ・ 担い手確保としてのサポーター登録者の受付と増強	540,000	—	540,000
21	相武台	○ 活動拠点・交流の場づくり ・ 「ひだまり相武台」運営 ・ 住民が気軽に集い・交流の場「ひだまりカフェ」開催 ・ 地域活動団体部屋の貸出 ・ 新しい生活様式に対応した地域活動の推進のためインターネット環境を整備 ○ 見守り活動 ・ 「支えあい（愛）相武台」実施 ・ 相武台グリーンパーク・新磯野北班、相武台団地・新磯野南班、相武台前町内会・サンハイム・サンヴェルジュの3班による一人暮らし高齢者への定期訪問、運営委員会開催、各班による毎月班会議を実施	224,492	260,000	484,492
22	東 林	○ 交流の場づくり ・ 「東林いきいの広場（地区内1か所）」開催 ○ その他 ・ ボランティア講座「東林いきいき塾」開催	102,250	260,000	362,250
合 計			4,229,218	3,512,279	7,741,497

8 交通遺児援護事業

(自主) 701,980 円

生活支援を目的に、交通遺児世帯へ見舞金・激励金の支給を行った。

本会 交通遺児指定寄付金の配分

支給金種類	対 象	金 額
指定寄付金等	7 人	700,000 円

9 南区地域福祉交流ラウンジの運営

(補助) 11,817,689 円

南区内で地域福祉活動等に取り組む市民を対象にした相互交流及び福祉情報の提供等を目的とした施設の管理運営を行った。

新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた協力事業でもある各サロンについて、再開に向けて感染対策等の話し合いを進めた。活動室の利用予約のない時間帯は、登録団体や地域団体が作成した高齢者や子育て世代向けの動画を放映した。また、3月には「ラウンジ月間」として登録団体が作成したパネルの展示を行い、登録団体及び南区地域福祉交流ラウンジのPRを強化した。さらに、広報事業として、地域の商業店舗や企業、薬局などに設置した「福祉の掲示板」により、「福祉なんでも相談」や地域の福祉情報を広く市民に向けて発信した。

1) 運営の概要

- 開設日数：308日（日曜・年末年始を除く。）
- 開設時間：午前9時～午後9時30分
- 窓口来場者数：5,746人・活動室利用者数：2,596人・登録団体：50団体
- スタッフ：相談員1人、補助員7人

2) 会議の開催

- 運営協議会：年1回（書面表決）
- 運営委員会：年3回（第3回のみ書面表決）
- 利用者懇談会：年1回
- 役員会：随時（年5回）

3) 通年事業の実施

- みんなのサロン コーヒーやさん：月2回
(11/26(金)より感染対策を講じながら再開)

- にほんご教室：週1回（緊急事態宣言中を除く）
- 福祉なんでも相談：週1回（緊急事態宣言中を除く）
- 県立相模原養護学校との協働（清掃活動：令和3年度は、2回）

※みんなのサロン、みんなの子育てサロン「ぽっかぽか」、ラウンジボランティア講座、季刊「ふくしラウンジ」については、新型コロナウイルス感染症の影響で実施せず。

4) 福祉の掲示板の設置

- 大野中（6）、大野南（9）、相模台（6）、相武台（3）、東林（7）

5) 壁面展示及び企画展の実施

南区で福祉サービスを利用する方やボランティアを行う方・団体等を中心に絵画や写真等の作品を公募し、社会参加のきっかけづくりを行うとともに、福祉イベントにちなんだ催しや登録団体による企画展を開催した。

壁面展示及び企画展実施状況

開催月日	内 容
令和3年 4月1日(木)～6月14日(月)	個人展示(5作品)
6月17日(木)～7月15日(木)	「さがみハート展」 ・精神障がいのある方が書いた詩と、その詩をテーマに描かれた絵を同時に展示する「さがみハート展」の巡回展
7月16日(金)～9月13日(月)	個人展示(9作品)
9月14日(火)～9月28日(火)	「おうちでいるカフェ」 ・ボランティアセンターで運営するボランティア登録制度「いるかバンク」に登録する方から約1年間で集まった作品を展示
9月30日(木)～10月16日(土)	「赤い羽根ポスター展」 赤い羽根共同募金の昭和20年代のポスターを始め共同募金の歴史などを展示
10月18日(月)～12月14日(火)	個人展示(6作品)
12月14日(火)～12月24日(金)	「福祉ポスター・標語展」 ・相模原市の福祉推進運動の一つとして行われている同ポスター展の巡回展 ・絵画や標語など入選作品を展示
令和4年 1月4日(火)～2月25日(金)	個人展示(10作品)
3月1日(火)～3月31日(木)	「ラウンジ月間」 ・ラウンジ登録団体のPRを行うため、団体紹介のパネルを展示

10 民生委員・児童委員研修事業

(受託) 1,200,000 円

民生委員・児童委員（定数：933 人（民生委員・児童委員 879 人 主任児童委員 54 人））を対象とした研修事業を実施した。

民生委員・児童委員研修実施状況

研修名	研修内容・コロナ対応	開催月日	受講者数
全体研修会	地域共生社会と民生委員・児童委員活動について各地区で実施	令和3年10月5日（火）～ 令和4年3月31日（木）	903 人
主任児童委員研修Ⅰ	スクールソーシャルワーカーと地域との連携について	令和3年11月30日（火）	42 人
中堅委員等研修会	“共育と協働”の大切さを語ろう！について個別受講で実施	令和3年11月10日（水）～ 令和4年2月28日（月）	458 人
地区会長・副会長研修	“地域の灯台”をめざそう！について、オンライン研修を実施	令和3年12月22日（水）	62 人
主任児童委員研修Ⅱ	主任児童委員活動活性化と児童委員との連携強化について、 ※資料配布により個別受講で実施	令和4年3月3日（木）	64 人
新任民生委員・児童委員研修会	民生委員・児童委員活動について	令和4年3月29日（火）	20 人

11 福祉教育活動推進事業

(補助・自主) 337,384 円

1) 高等学校への福祉活動支援

高等学校が取り組む福祉活動の普及・啓発を目的に、地域住民や福祉施設、ボランティア等と連携・協力を行いながら、事業の企画の段階から実施までを支援し、高校生の福祉活動に対する意識の向上と参加の促進を図った。

ア 担当教諭個別相談会の開催

開催日： 令和3年12月7日（火）～令和3年12月22日（水）

内 容：次年度の取組や地区社協との連携について

実施校：6 校

（県立相模原総合高等学校、県立津久井養護学校、県立城山高等学校、県立相模原養護学校、県立相模原中央支援学校、県立相模原弥栄高等学校）

イ 補助金交付対象校への支援

補助金交付状況

学校名	内 容	交付額	執行額
県立相模原総合高等学校	・ 福祉施設との交流 ・ 福祉コンサート	150,000 円	61,399 円
県立津久井養護学校	・ 学校間交流 ・ 学習支援ボランティア 等	50,000 円	18,481 円
県立城山高等学校	・ ひまわりクラブ人形劇公演	70,000 円	70,000 円
県立相模原養護学校	・ 地域支援事業	150,000 円	68,830 円
県立相模原中央支援学校	・ 地域環境整備事業 ・ 地域イベント交流	60,000 円	60,000 円
県立相模原弥栄高等学校	・ ふれあいコンサート 2021	35,000 円	— 円
合 計		515,000 円	278,710 円

※今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部との交流事業をはじめ多くの事業がやむなく中止になったため、執行額が少額となった。

2) みんないいひと体験講座の開催

主に小・中学生等を対象に、福祉体験講座の開催について講師派遣調整、物品貸出しを実施し、福祉に対する理解を深めた。

ア 講師の派遣調整等

実施件数：51 件（小学校 23 校、中学校 19 校、高等学校 4 校
養護学校 1 校、大学 1 校、企業 1 社、公民館 2 件）

参加者：5,339 人



イ 物品貸出

車椅子：9 件、高齢者擬似体験セット：14 件

ウ 福祉教育実践担当教諭の支援

令和 3 年 5 月 20 日（木）開催「小・中学校における人権・福祉教育の担当者会（学校教育課主催）」において、みんないいひと体験講座の概要や申請方法の説明を行った。

エ その他

福祉用具を用いた体験型講座のみならず、オンラインの活用、映像教材の作成等、新たなプログラム開発に取り組んだ。上溝中学校では、「共生社会」をテーマに、当事者を講師としたゼミ形式で講座を開催した。取り組みは「タウンニュース」に紹介され、全社協『ボランティア情報』及び『福祉教育プログラム磨き事例集～ベストオブカリキュラム～』に掲載された。



3) 障がい児通学等送迎活動経費交付事業

ボランティアが取り組む障がい児の通学等送迎活動に対して、活動経費の一部を交付した。

- 活動回数：346 回、交付総額：103,800 円

12 ふれあいデイホーム事業

(補助・自主) 5,942,942 円

在宅の障がい児者を介護している家族等介護者が、休養や外出等で介護ができない場合に、相模原市南保健福祉センター内に設置された「福祉支援室」において、障がい児者を昼間一時的に介護し、その世帯の援助を図った。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、スタッフが利用者 1 人当たり 1 名でケアができるよう、定員を通常の半数程度とした。

- 令和 3 年度末利用登録者数：314 人
- 運営委員会の開催：令和 4 年 3 月 28 日 (月) ※本会評議員会にて予算承認

開設日数・利用者数等			預り事由別内訳			
区 分		人数等	区 分	人数	区 分	人数
年間開設日数		268 日	保護者の疾病・入通院	7 人	本人の学校関係	2 人
年 間 延べ利用者数	18 歳未満	135 人	介護・看護	一人	兄妹の学校関係	1 人
	18 歳以上	286 人	冠婚葬祭	一人	その他	228 人
	合 計	421 人	公的機関・自治会等	10 人	私的理由	168 人
1 日当たり利用者数		約 1.6 人	出産	一人	体験	5 人
					合 計	421 人

利用時間別内訳

区 分	人 数
半 日	210 人
全 日	211 人
合 計	421 人

医療的ケア等申請実施状況

申請内容	申請者数	実施回数
経管栄養	11 人	11 回
吸引	一人	一回
てんかん発作時投薬	一人	一回
在宅酸素	1 人	1 回

1 3 インターネット等活用福祉情報提供事業

(共募・自主) 2,587,284 円

電子メール等により市民をはじめ本会一般会員等から福祉講座や研修会、イベント等に関する情報を収集し、本会ホームページにより情報提供を行った。

1 4 地域の支えあい応援事業(地区社協育成費補助金)

(共募・自主) 18,443,434 円

地区社会福祉協議会活動の充実・促進を図るため、運営費及び活動費の助成等を行った。

地区社協育成費補助金財源内訳

補助事業名		財源等
地区社協活動推進事業	基礎事務事業費	共同募金配分金 年末助けあい配分金
	共同募金活用費	
	人口等傾斜配分金	
	ボランティアグループ育成費	
特別育成費補助金		地域貢献型等自販機売上 手数料収入
地域助けあいシステム事業助成		共同募金配分金
小地域福祉活動助成金等		年末助けあい配分金

1 5 災害見舞金の支給

(共募・自主) 250,000 円

火災等罹災世帯への見舞金の支給を行った。

災害見舞金支給状況

見舞金内容等	件数	支給金額
全焼 (1件 20,000円)	10件	200,000円
半焼・半壊 (1件 10,000円)	2件	20,000円
床上浸水 (1件 10,000円)	1件	10,000円
死亡 (1件 20,000円)	1件	20,000円
合 計	14件	250,000円

1 6 就職支度費等一時給付事業（生活困窮者世帯就職活動応援事業）

（共募）13,464 円

離職その他の事情により一時的に生活困窮に陥り、就職等による自立を志向する世帯を支援するため、就職活動及び就職後に直接必要な物品の給付を行った。

○ 給付対象：1 世帯

就職支度費等一時給付事業給付状況

	給付内容	給付額
1	就職後必要物品（眼鏡）購入費用	13,464 円
	合 計	13,464 円

1 7 食料品等緊急一時給付事業

（共募）96,888 円

離職その他の事情により一時的に生活困窮に陥り、生活福祉資金等の貸付決定や給与・公的給付等収入日まで（おおむね1週間以内）の間、生活を維持するための食料品の確保が困難な世帯を対象に食料等の給付を行った。

○ 給付対象：19 世帯（33 人分・延べ95日間分）

1 8 生活困窮者支援団体応援事業

（共募）1,145,589 円

市内の生活困窮者の社会参加や自立生活の促進を目的とした活動を行う団体に対して、助成事業を通じて支援を行った。

○ 助成団体：5 団体

○ 助成金額：1,142,949 円

○ 主な助成対象事業：就労準備支援や社会参加の場づくり、フードバンク等

19 子ども健やか育成事業

(共募) 6,379,108 円

市内の福祉的課題を抱える子どもたちの居場所づくり等の活動を行う団体に対して、助成事業を通じて支援を行った。

- 助成団体：31 団体（うち、新規申請団体 6 団体）
- 助成金額：6,349,839 円
- 主な助成対象事業：子ども食堂、無料学習支援、学校の長期休暇中の居場所づくり

20 子どもの居場所創設サポート事業

(受託) 4,400,000 円

子ども食堂や無料学習支援等、地域で展開する子どもの居場所づくりを推進するため、必要な情報の提供、活動の周知や運営に関する相談など地域住民が活動しやすい環境づくりを進めるために、以下の事業を実施した。

1) 子どもの居場所づくりセミナー

地域で展開する子ども食堂や無料学習支援等、ボランティアや住民が運営する子どもの居場所づくりについて、開設・運営を進めるために必要な情報の提供や立ち上げなどを応援するために実施

① 「みんなでつくろう！子どもの居場所 子ども居場所づくりセミナー」

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和3年7月12日（月） ユニコムプラザさがみはら セミナールーム2	・講演：子どもの居場所とは 始めるためのあれこれ （講師：おひさま 代表 山角 直史氏） ・相模原市の子ども居場所づくりへの支援 ・事例報告（にこカフェママ隊、無料塾ひばり学校）	27 人

② 「子どもの居場所づくりセミナー兼情報交換会 地域をつなぐ「居場所」」

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和3年11月23日（火・祝） ※Zoomによるオンライン開催	・子どもの居場所についての基礎知識 ・講演：地域をつなぐ「居場所」 （講師：東京都立大学 准教授 室田 信一氏） ・グループワーク 「なぜ居場所が必要なのか」、「居場所があると何が変わるのか」	25 人

③「子どもの居場所づくりセミナー」

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和4年3月8日(火) ※Zoomによるオンライン開催	・子どもの居場所についての基礎知識 ・事例報告（さがみはらみらい塾、城山子ども食堂ころもで） ・グループワーク 「セミナーで印象に残ったこと」、「今後に活かそうなこと」	23人

④「学生×子どもの居場所づくりセミナー兼情報交換会」

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和4年3月21日(月・祝) ※Zoomによるオンライン開催	・子どもの居場所についての基礎知識 ・子どもの居場所運営団体による活動紹介&アピールタイム (あさみぞみんなのコミュニティ、おひさま学級、くすのき広場、みんなの居場所ポプケ、みんなの場とてと、学び場ここから、かけはし、中央っこ学習塾) ・グループワーク（登壇者・参加者交えて）	18人

2) 情報交換会

子どもの居場所づくりの運営を進める団体間の連携を推進するために実施

① 子ども食堂関係団体情報交換会

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和3年6月10日(木) あじさい会館6階展示室	・行政からの情報提供（①食品衛生管理について、②アンケートについて、③市の後援・支援について） ・情報交換（自己紹介と情報・意見交換） ・市社協、団体からの情報提供 ・寄付物品の配布	31人

② 無料学習支援団体情報交換会

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和3年6月11日(金) あじさい会館6階ボランティア活動室 ※対面とZoomによるオンラインのハイブリッド開催	・行政からの情報提供 (①夜間中学について、②アンケートについて、 ・情報交換（自己紹介、情報・意見交換） ・行政による寄付物品の提供	12人

③ 無料学習支援団体情報交換会

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和3年10月22日（金） ※Zoomによるオンライン開催	・行政からの情報提供（第一生命からの寄付物品について） ・情報交換（自己紹介、フリートーク）	11 人

3) 子どもの居場所普及啓発事業

「子どもの居場所」が少ない地域において、「子どもの居場所」への認知向上及び理解促進、また、地域が主体となった「子どもの居場所」創設に向けた意識醸成を図ることを目的に実施



① 「おためし子ども食堂×子どもの居場所パネル展」

開催月日・会場	内 容	食数
令和3年11月26日（金） JR相模原駅前ペデストリアンデッキ	・おためし子ども食堂（協力：だれでも食堂フルーツポンチ） ・市内子どもの居場所活動のパネル展 ・寄付物品等の配布 ※「女性のつながりサポート事業」の相談会が同日開催だったため、参加者へ相談会参加を促した。	50 食

② 「おためし子ども食堂」

開催月日・会場	内 容	食数
令和3年12月18日（土） 下九沢団地	・おためし子ども食堂（協力：下九沢団地食堂） ・寄付物品等の配布 ・子どもの居場所情報サイトや窓口、「女性のつながりサポート事業相談会」について周知	103 食

③ 「おためし子ども食堂×子どもの居場所パネル展」

開催月日・会場	内 容	食数
令和4年2月23日（水・祝） 光が丘公民館	・おためし子ども食堂（協力：光が丘こども食堂ピカリカフェ） ・市内子どもの居場所活動のパネル展 ・寄付物品の配布	78 食

4) 子どもの居場所総合相談窓口

子どもの居場所を立ち上げ、運営する団体の支援のため、本会（中央ボランティアセンター）に相談窓口を設置し、新規開設等に係る問合せ、子どもの居場所への寄付相談等を行った。

- 相談員：1 人配置
- 相談件数：延べ 3,599 件（うち、新規立ち上げ相談件数：33 件）

2.1 市民活動育成支援事業

（共募）1,474,529 円

1) 市民活動団体への助成

当事者活動及びボランティア活動の支援を目的に、障がい児者・高齢者・子ども・難病患者等の福祉課題に取り組む団体に対する活動助成を行った。

- 助成対象：16 団体
- 助成総額：1,461,049 円

2) ボランティアセミナー

市民のボランティア活動を促進するため、活動紹介、活動の心構え、車椅子体験など活動の基礎を中心に本会職員による講習会を実施した。

- 開催回数：15 回（会場：緑区合同庁舎、あじさい会館、南保健福祉センター等）
- 受講者：66 人

3) 課題別ボランティアセミナー

「福祉コミュニティ形成事業」により設置された各地区ボランティアセンターやボランティアグループを対象に、「コロナ禍における市民福祉活動事例」についての情報提供と、コーディネートスキル向上のための勉強会を開催した。地区を超えた情報交換と活動者のネットワーク強化の契機となった。

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和 4 年 3 月 24 日（木） あじさい会館 6 階展示室 ※Zoom によるオンライン中 継で 3 グループが参加	・コロナ禍における市民福祉活動について ・勉強会（これからのボランティアコーディネートを考える） ・グループワーク 「これからのボランティアセンターについて」	29 人 (12 グループ)

4) 市民まつり「ふれあい・ふくしブース」

「第 49 回相模原市民桜まつり」にて、福祉の担い手となるボランティアグループ等が市民への活動の P R や団体間の交流促進を図る機会として、独自の出店ブースを設営する予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

一方で、市内ボランティアグループの運営上の課題等を把握するため、144 団体に対してアンケートを実施。本会に求められるボランティアグループへの支援方策について検討し、今後のボランティアセンター事業に反映していく。

5) 中学生・高校生のボランティア活動体験の場づくりに関する検討

今年度は中学生・高校生を対象としたボランティア活動体験の場づくり事業の実施に向けて検討していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

そのため、事業の主催団体である相模原市市民活動中間支援施設連絡会【相模ボラディア（本会ボランティアセンター・さがみはら市民活動サポートセンター・さがみはら国際交流ラウンジ）】では、相模原市青少年学習センターの助言のもと、感染症拡大の影響に左右されにくい事業の実施方法について協議を重ねた。また、一方で、各々が提供するサービスや市民から受けた相談内容等について積極的に情報交換を行い、施設間の相互理解や協力体制の強化にも力を入れた。

2.2 ボランティアセンター運営事業

（補助・自主）5,558,544 円

1) 緑・中央・南ボランティアセンターの管理運営

- 活動把握ボランティアグループ：124 団体(令和 4 年 3 月末現在)
- ボランティアセンター相談員 7 人配置

相談件数の状況

区 分	件 数
ボランティア活動相談件数	286 件
ボランティア依頼相談件数	131 件
その他相談件数	327 件
合計	744 件

ボランティア依頼内容

区 分		件 数
個人	通院介助	1 件
	学校・保育園送迎	4 件
	外出介助	3 件
	話し相手・見守り	7 件
	清掃関係	4 件
	その他	16 件
団体	レクリエーション指導	8 件
	日課活動補助	4 件
	イベント支援	16 件
	パフォーマンス披露	26 件
	その他	21 件
合計		110 件

2) 相模原市市民活動中間支援施設連絡会（相模ボラディア）

市民活動中間支援施設の連携・協働を進めるために、定例的に会合を行い情報共有・協働事業の企画・検討を行った。（年 7 回開催）

- 加入施設：ボランティアセンター、さがみはら市民活動サポートセンター、さがみはら国際交流ラウンジ
- オブザーバー：相模原市立青少年学習センター

3) ボランティアグループ活動等調査

ボランティアグループの活動状況を調査し、窓口での紹介及び本会ホームページでの情報提供を行った。

4) コロナ禍において安定的にボランティア活動を実施するための方法の検討

傾聴活動のオンライン化や外出付添いの安全な実施のためのルール作成など、コロナ禍における活動方法について検討・実施した。

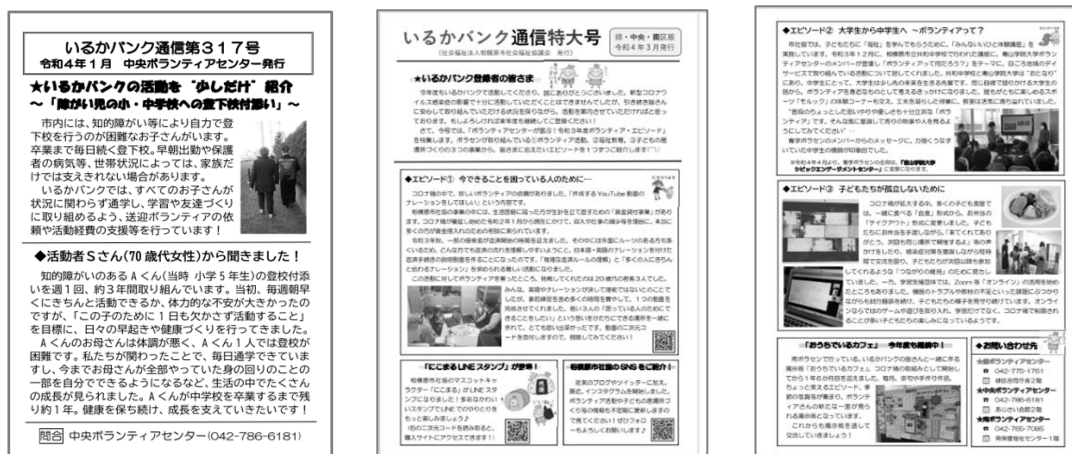
23 いるかバンクの運営

(自主) 322,671 円

ボランティア活動の促進を目的に、ボランティア登録制度「いるかバンク」を運営し、登録者に活動情報の提供を毎月行い活動機会の充実を図った。

- 登録者数：568 人
- 活動者数：延べ 1,232 人

1) いるかバンク通信の発行（ハガキ版：11回、A4両面版特大号：1回）



2) 公式 LINE アカウントの活用によるボランティア活動情報の提供

情報発信ツール LINE の公式アカウントを活用して、ボランティア活動情報等の提供に取り組んだ。

3) ホームページにおける「ボランティア募集情報」ページの更新

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でボランティア活動が制限される中、活動者を募集する団体の情報をより多くの市民等に届けられるよう、随時、更新を行った。

4) 大学生や企業からのボランティア活動への対応

SDGs や社会貢献活動への関心が高まる中、学生や企業からのボランティア相談が増加した。相談者に向けて独自にボランティアセミナーを開催したり、細かくヒアリングしながら活動プログラムの開発を試みるなどの対応を行った。

2.4 防災ボランティア推進事業

(補助・自主) 86,815 円

1) 「災害ボランティアセンター立上げ講座」の開催(延期)

本市内で災害が発生した際の、「災害ボランティアセンター」の機能や運営等の考え方について、市民に周知するために、「防災とボランティア週間」の時期に合わせて企画した。「災害時における相互協力に関する協定」の締結先である相模原青年会議所・津久井青年会議所の防災担当とも内容を共有して進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となった。

○ 共催：相模原災害ボランティアネットワーク、後援：相模原市

「災害ボランティアセンター立上げ講座」の開催

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和4年1月23日(日) あじさい会館6階展示室	講 義：「災害ボランティアセンターとは」 ～関係機関の役割分担と協働について～ (講師：ピースボート災害支援センター) ワーク：「ニーズとボランティアのマッチング体験」	延 期

2) 災害ボランティアコーディネーター養成講座

○ 主催：相模原災害ボランティアネットワーク(本会共催)

災害ボランティアコーディネーター養成講座の開催

開催月日・会場	内 容	受講者数
令和4年3月6日(日) あじさい会館6階展示室	・災害ボランティアの基礎知識 ・災害時ボランティアセンターについて ・コーディネーターの活動について ・活動事例紹介 ・グループワーク 等	中 止

- ・内容のリニューアルのため、相模原災害ボランティアネットワーク運営委員会会長を中心に、講座検討会を開催した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。

3) 災害ボランティア活動訓練

相模原市総合防災訓練の一環として、災害ボランティア活動への意識の高揚を図ることを目的に、例年、相模原災害ボランティアネットワークと協働し市民ボランティアの参加を得てブースを設置している。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止となった。

4) 市内自治会等防災訓練への協力

相模原市からの依頼に基づき、自治会等が実施する防災訓練において災害時要援護者支援訓練等への職員派遣及び訓練用資機材の貸出しを行った。

- 派遣件数：1 件・派遣職員数：2 人
- 訓練用資機材（車いす、段差）の貸出

2.5 ささえあいセンターの運営

(補助) 4,648,115 円

令和元年東日本台風により被災した地域住民の生活上の不安解消や孤立、孤独の防止等を目的にささえあいセンターを設置し、訪問等による相談援助及び地域づくり支援を実施した。

1) 設置場所

城山地区ささえあいセンター（市社協城山地域事務所内）
 津久井地区ささえあいセンター（市社協津久井地域事務所内）
 相模湖地区ささえあいセンター（市社協相模湖地域事務所内）
 藤野地区ささえあいセンター（市社協藤野地域事務所内）

2) ささえあいセンター相談員の配置

4 地区ささえあいセンターに各 1 名の相談員を配置した。

3) 支援対象者

○139 人

延べ支援件数

相談方法	件数
訪 問	136 件
電 話	194 件
来 所	10 件
その他（ボランティア派遣を含む）	48 件
合 計	388 件

相談内容

相談内訳	件数
経済面	16 件
住居関連（仮設・再建）	21 件
介護・福祉・医療関係	3 件
その他（ボランティア派遣を含む）	348 件
合 計	388 件

4) 地域づくりに向けた講座の開催協力

地区社会福祉協議会主催事業の講座開催や防災意識の啓発、災害ボランティアセンター発足時の地域協力者の登録の取組に協力した。

ア 4 地区合同

名称：つくい防災ミュージアム！～学んで、感じてG o T o 防災体験～

主催：公益社団法人 津久井青年会議所

月日：令和4年2月20日

場所：相模原市立中野小学校

内容：体験ブースでの災害ボランティアセンター及びささえあいセンターの活動展示

参加者：100人

イ 4 地区の実施状況

地区名	実施内容
城山	名称：「防災Q&A その時どうする？」 内容：地区社協において実施した、防災意識の啓発と地域および近所の人達との助けあいの意識の醸成を目的に、地区内中学校（2校）の生徒を対象としたアンケート調査に協力 実施期間：令和3年12月1日（水）～12月10日（金） 回答数：630名
津久井	防災マップ、避難行動カードを作成し、一部サロンで活用内容の説明を行った。 実施サロン：小網きずなサロン
相模湖	名称：防災セミナー「災害時の地域ボランティア活動について」 日時：①令和3年7月18日（日）午後2時～4時 ②令和3年9月30日（木）午前10時～午後12時 場所：相模湖総合事務所 出席者：地区社協理事・構成員 35名 ちょこっとボランティア相模湖登録者・地区社協役員等 16名
藤野	(1) 名称：NPO法人ふじの里山くらぶ 「気候変動藤野学」 イベントにて報告 「令和元年台風19号災害 藤野地区の報告～地域での支え合いを考える～」 日時：令和3年12月5日（日）午後1時30分～3時30分 場所：藤野中央公民館 3階大会議室 参加者：14人（ふじの里山くらぶ会員） (2) 名称：災害ボランティアセンター協力員研修 *藤野地区社協との共催 日時：令和4年1月14日（金）午後3時～4時 場所：藤野中央公民館3階 大会議室 参加者：協力員等21人 (3) 防災マップ、避難行動カードを作成し、一部サロンで活用内容の説明を行った。 実施サロン：藤野のびのびクラブ、下岩のびのびクラブ

5) 福祉教育プログラム作成

名称：「非常用持ち出し品を使った活動」

内容：豪雨等で一時的に避難場所に避難することを想定し、持ち出しすべき品物についてカードを使ったグループディスカッションを行い考えを深めていくものとして作成を行った。今後、関係団体と普及について検討を行う。

※令和3年度末で「ささえあいセンター運営事業」終了

2 6 ボランティア協会活動助成

(自主) 1,450,000 円

相模原ボランティア協会の運営及び活動に対する助成を行った。

1) ハンディキャブ号の運行

- 活動件数：552 件 利用者数：延べ 743 人
- 運転ボランティア：延べ 552 人 活動介助ボランティア：今年度は活動なし

2) ボランティア養成講座の開催

ア 基礎講座…中止

イ コース別講座…中止

ウ 春講座 「ボランティア見本市ーPart 1 新しいボランティアのかたち」

開催月日：令和4年3月19日（土）

会 場：あじさい会館 6 階展示室

参加者：39 人

(一般参加 23 人、広報担当者 1 人、講座担当者 15 人)

2 7 地区住民相談支援活動推進事業

(自主・共募) 1,075,426 円

地域の支えあい活動や相談支援活動をより効果的に進めるための専任担当者として、コミュニティソーシャルワーカー（CSW）を市内全 22 地区に配置し、「個別支援（既存の制度だけでは対応困難な個別ニーズの把握と相談支援）」及び「地域支援（地域の支えあい活動の推進、専門機関等との連携体制の構築等）」に取り組んだ。

また、「自立支援一時給付事業」により、個別支援において把握した生活困窮者の生活基盤確保に要する経済的な支援や「地域支えあい活動応援事業」、「生活支援体制整備事業」において把握された福祉課題解決に取り組む活動に対して助成を行った。

CSWによる支援の状況

	実相談件数	延支援回数
個別支援	449 件	6,079 件
地域支援		11,037 件

1) 個別支援

ア 相談支援の状況

延べ「個別支援」対象別相談内容

内 容	件数	内 容	件数
高齢	167 件	外国籍	15 件
身体障がい	23 件	疾病	52 件
知的障がい	21 件	無職	40 件
精神障がい	88 件	ひきこもり等	47 件
発達障がい	11 件	依存症	7 件
一人親	22 件	その他	76 件
子ども	41 件	不明	23 件
合 計			633 件

延べ「個別支援」課題別相談内容

内 容	件数	内 容	件数
認知症	26 件	出産・子育て	19 件
経済的困難	126 件	虐待・DV	19 件
金銭管理	33 件	精神的不安	60 件
家事等困難	30 件	孤立	55 件
介護	21 件	近隣トラブル	43 件
就労	46 件	偏見・無理解	8 件
ごみ問題	28 件	社会資源不足	49 件
住居問題	38 件	その他	279 件
ひきこもり	1 件		
合 計			881 件

イ 自立支援一時給付事業

給付件数：2 件（総額 100,080 円）

- 金銭管理などに課題を抱える 70 代単身世帯の支援
 - ・電話料金の支払いおよび生活費
- 経済的に困窮している外国籍世帯への支援
 - ・進学手続きを目的とした翻訳機の購入費用

2) 地域支援

ア 地域支援の状況

○ 啓発活動

- ・ C S W実践報告の発行と周知（地区社会福祉協議会・民生委員児童委員協議会に対し、C S Wの取組を報告し課題を共有）
- ・「つながりアクション」WEB版の検討と準備



CSW 実践報告

○ 各機関との関係構築・連携

- ・ 障害者相談支援キーテーションや松が丘園との情報共有
- ・ ひきこもり支援ステーションや若者サポートステーションとの連携による若い世代の見守りや居場所づくり
- ・ 通学支援が必要な児童のボランティア活動支援と、通学支援に関する課題をボランティアセンターと検討
- ・ 総合情報システム「こころ」による本会内での情報共有化と連携
- ・ 南区の包括連絡会へ参加し、C S W実践事例の報告やグループワークを通じたC S Wの役割の共有
- ・ C S Wの支援方針の共有などを目的として、C S W実践ガイドラインを改訂



○ 地域でのネットワークづくり

- ・ 地区社会福祉協議会や地区ボランティアセンターとの連携
- ・ 子どもの居場所運営団体と地域のつながりの推進等を支援
- ・ 多世代交流や地域とのつながりの推進を目的として、中学校とボランティアセンター、ボランティアグループ、地域包括支援センター等と連携して福祉教育の実施を支援

イ 地域支えあい活動応援事業

助成件数：2 団体（令和 3 年度 総額 113,217 円）

- 犬の散歩を通じて地域から孤立しがちな高齢者を支援する「ハッピーサポート隊」の活動費用（東林地区）
※助成開始年度：令和 2 年度～
- ひきこもりがちな方への社会参加の場「田名ふれあい交流農園」の運営（田名地区）
※助成開始年度：平成 31（令和元）年度～



ハッピーサポート隊



田名ふれあい交流農園

3) CSW研修等の実施

・CSW全体研修の開催

開催月日	内 容
令和3年4月19日(月)	○講義・演習 「地域共生社会と社協の地域づくり」 講師 東京都立大学 室田信一准教授 ○説明 「第9次地域福祉活動計画の策定の背景と推進に向けて」 市社協 総務課企画財政係 職員 ※職員研修兼CSW全体研修として実施(12ページ参照)
令和3年9月24日(金)～ 令和3年12月24日(金)	オンライン配信 主催：横浜市社会福祉協議会 基調講演「つながり続ける地域づくりのために」 講師 東京都立大学 室田信一准教授
令和3年10月12日(火)～ 令和3年10月18日(月)	オンライン配信 主催：神奈川県社会福祉協議会 「成年後見制度を学ぶ(基礎編)」

・CSWリーダー・中堅職員研修会の開催

開催月日	参加人数	内 容
第1回 令和3年10月4日(月)	10人	「ストーリー・オブ・セルフ(私の物語)」 講師 東京都立大学 室田信一准教授
第2回 令和3年11月29日(月)	8人	「ストーリー・オブ・セルフ(私の物語)」 講師 東京都立大学 室田信一准教授

・事例検討会等の開催、参加

区 分	内 容
CSW 事例検討会 グループスーパービジョン	区ごとに月1回程度、事例検討会を実施。事例検討や情報共有を図るとともに、必要に応じて、田園調布学園大学 隅河内司教授の助言を受けた。
南・緑キーステーション グループ・スーパー・ビジョン	キーステーション主催のGSVに参加 参加している機関との情報交換および地域課題の共有を図った。
中央・勉強会	主任以下の職員を対象とした勉強会を月1回実施 各地区の取り組み等、情報共有を図った。

28 生活支援体制整備事業

(受託) 54,335,000 円

29 日常生活圏域に「生活支援コーディネーター」を配置し、各圏域の地域包括支援センターとの連携・協働により、介護予防・日常生活支援総合事業による高齢者を支える仕組みづくり等を「地域づくり部会」の運営支援を通じて取り組んだ。

29 圏域の「生活支援体制整備事業」主な取組

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
1	橋 本	○ 担い手支援 ・ コロナ禍で休止している高齢者の集いの場の再開方法や感染症対策等についての研修及び団体同士の情報交換会（いきいき百歳体操団体向け1回、ふれあい・いきいきサロン及びシニアサポート活動団体向け1回）を開催し、活動の再開を後押しするとともに担い手の負担感や不安の軽減に取り組んだ。 ○ いきいき百歳体操（1か所）、介護予防活動（1か所）の立上げ	2 回
2	相 原		
3	大 沢	○ 担い手づくり ・ 2年前のニーズ調査で協力可能者へのヒアリング ○ 地域ニーズの把握 ・ ケママネ連絡会での在宅高齢者のニーズヒアリング ○ 地区内各団体及び会議体の理解とコロナ禍における取組を情報共有 ○ 第8期高齢者保健福祉計画及び高齢者実態調査についての情報共有 ○ 居場所づくり ・ コロナ禍で休止となっている通所型シニアサポート活動2団体については、再開に向けてのスタッフ会議の開催を促した。 ・ 百歳体操など再開に向けた活動支援 ○ 部会活動情報紙「おおさわの風」1回発行	4 回
4	城 山	○ 外出支援 ・ 外出支援検討の場「お出かけの“わ”委員会」の開催 ・ 参加の場及び買い物、通院の移動支援のニーズについて協議 ○ 見守り活動 ・ 個別事例部会においてテーマとなった高齢者の地域での見守りについて、地域でできる取組について検討 ○ 居場所づくり ・ 認知症カフェ「まんまるえがお」（オンライン開催）、定例ミーティングなどの支援	3 回 作業部会 1 回
5	津久井	○ 今後の検討テーマについて ・ 今後検討していくテーマについて検討 ○ 津久井地区「地域の課題」について ・ 津久井地域の高齢者の暮らしの現状 ・ 津久井地域で高齢者が暮らしていくために、必要なものや、あったら暮らしやすいもの 以上の2点について意見出しを行なった。	2 回
6	相模湖	○ 居場所づくり ・ シニアサポート活動への運営支援 ○ 生活支援 ・ 住民相互の支えあい活動「ちょこっとボランティア相模湖」への運営支援 ・ 「災害時に備えるものリスト」の作成、自治会を通じて全戸配布	4 回 (うち書面開催 1 回)

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
7	藤 野	○ 外出支援・買物支援 ・ 「藤野台課題検討会」の開催、地域課題の検討を行った。 コロナ禍で一時期休止となることもあったが、十分な感染予防を施し、藤野台住民の移動外出支援として買物ツアー、「ももちゃんサロン」を月2回実施 ・ 3月に地域の商店、スーパー、コンビニ 12店舗を対象に買い物支援について聴き取り調査を実施 ○ 見守り活動 ・ 地域の「ゆるやかな見守り」について自治会長会議にて説明（2回） ・ 商店・事業所等の見守り推進「ひとまわり大きな見守り」に向け、商工会理事会にて説明。協力27店舗にステッカーを配布 ※コロナ禍のため見守り活動を大きく広げることが出来なかったが、上記の見守り活動が機能し、地域包括支援センター等に有意義な情報が寄せられた。	4 回 藤野台課題検討会 10 回
8	小 山	○ 第7期高齢者保健福祉計画の振り返り ○ 第8期高齢者保健福祉計画及び高齢者実態調査についての情報共有 ○ 調査と把握 ・ 新しい生活様式における地域ニーズや課題について、民生委員・ボランティア団体にアンケート調査を実施（65名） ・ 情報発信や情報収集における工夫について、地域づくり部会委員にアンケート調査を実施（14名） ○ 居場所づくり ・ サロン団体の立ち上げ（1か所）	2 回 書面会議 1 回
9	清 新	○ 介護予防に関する取り組み ・ 地域包括支援センター及び公民館と連携し、地区内の介護事業所を回る「ウォーキングおたすけマップ」を実施 ・ 介護予防講演会の開催、清新小学校の体育館で地域づくり部会員及び地区内のサロングループなどを対象に、軽体操と高齢化社会に向けた地域での活動について学んだ（52名参加） ○ 生活支援 ・ 清新地区社協「ちょこっとボランティアくらぶ」で継続的にごみ出し活動を実施 ○ 担い手づくり ・ 「ちょこボラ」の定例ミーティングにおいて、シニアサポート活動について啓発し、担い手について呼びかけ ・ 「サロン・ボランティアグループ合同連絡会」の開催、コロナ禍での困りごとをアンケートで調査し、結果をもとに連絡会において情報交換	2 回
10	横 山	○ 買物支援・居場所づくり ・ 企業と連携した「移動販売」を実施。見守り支援・移動支援・情報提供・集いの場として、3箇所以小コミュニティを形成 ○ 生活支援 ・ シニアサポート活動訪問型（2か所）、通所型（1か所）を新たに立ち上げ ○ 啓発活動 ・ 世界アルツハイマー月間に向け、認知症の理解と見守りの促進を図る「オレンジプロジェクト」を実施 ○ 地域情報の発信 ・ 地域づくり部会だより「ALL 横山かわら版」の発行 ○ 医療・福祉施設と地域住民とのネットワーク化 ・ 医療・福祉施設従事者を対象にコロナ禍でのアンケート調査を行い、地域住民を交えたオンライン交流会を開催。施設間の情報共有及び地域との顔の見える関係づくりを行った。	2 回 医療・福祉施設との交流会 2 回

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
11	中 央	○ 小地域のお出かけマップづくり ・ 実行委員会を開催し、「相模原・矢部地域」のマップを作成 ・ 3月に地域づくり部会だよりを発行し、活動を周知 ○ 居場所の取組を検討 ・ 居場所の在り方を検討するとともに、移動式の情報提供型の居場所のモデル事業として「ふれあいいきいき広場」を開催 ○ コロナ禍における各種団体の取組を情報共有	4 回 マップづくり 実行委員会 4 回
12	星が丘	○ 新たな生活様式に対応した介護予防・健康づくりの取組の推進 ・ コロナ禍における高齢者の身体低下より「みんなで元気に歩き隊」発足 ○ 地域における見守り体制の推進 ・ 孤立死の防止や認知症を地域で支える「みんなでおさんぽ・パトロール」発足 ○ 星が丘版地域包括ケアシステムの実現に向けた取組 ・ 介護保険事業による地域貢献や地域の資源についてニーズを把握した。 ○ 地域づくり部会だより 2 回発行	4 回 アンケート 1 回
13	光が丘	○ 居場所づくり ・ だれでも参加できる百歳体操会場の推進・活動支援 ○ 買物支援 ・ 光が丘買い物お助け隊の活動支援・課題対応 ○ 新たな取組 ・ 大型荷物等の運搬に関する高齢者のニーズ調査を実施 ・ 高齢になっても続けられる地域サークル活動の調査	3 回 グループ会 6 回
14	大野北 第 1	○ 通い場づくりの普及について ○ ちょっとした困りごと支援について	全体会 2 回 (内 1 回書面) 検討チーム
15	大野北 第 2	○ 地域情報の発信 地域づくり部会通信（第 4 号）の発行	7 回
16	田 名	○ 居場所づくり ・ 「訪問型シニアサポート活動」の立ち上げ、活動支援 ・ ユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を地区社協・老人クラブ・公民館と協力し、推進。相模田名高校の学生に「ボッチャ」講習会を実施 ・ 農作業の場「田名ふれあい交流農園」活動支援 ○ コロナ禍における各種団体の取り組みを情報共有 ○ 第 8 期高齢者保健福祉計画及び高齢者実態調査についての情報共有	3 回 書面会議 1 回
17	上 溝	○ 相談窓口づくり ・ 「高齢者相談つなぎの家」実施 ○ 困りごとの整理 ・ 「認知症・物忘れ」について理解を地域に広めるための意見交換、検討	2 回
18	大野中	○ 調査 ・ 鶴野森地区在住の高齢者を対象とした「困りごとアンケート調査」に向け、地域アセスメントを実施 ○ 担い手の募集 ・ おおのなかボラセンの活動や依頼の状況把握、活動の周知を行った。 ○ 地域との連携 ・ 「～みんなつながる～おおのなかでできること宣言」協力事業所の開拓	4 回 (うち 1 回は 大野中地区 3 包括圏域 合同部会)

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
19	大 沼	○ 地域情報の提供 ・ 住民活動の訪問と情報の収集・発信 ○ 活動の立ち上げ支援 ・ 「百歳体操」の新規団体立ち上げ、体験会の実施 ○ 見守りの啓発 ・ 単位自治会区をモデル地区として、地域意識アンケートを実施 「見守りの勉強会」について検討	4 回 (うち 1 回は 大野中地区 3 包括圏域 合同部会)
20	大野台	○ 地域資源の把握 ・ 住民活動の訪問と情報の収集・発信、新たな団体の把握 ・ 移動販売ルートを訪問し、情報収集、情報提供の場として活用 ○ 地域資源の開拓 ・ 担い手候補や移動販売の拡大 ○ 健康づくりを目的とした「お散歩マップ」の作成を検討	4 回 (うち 1 回は 大野中地区 3 包括圏域 合同部会)
21	大野南	○ 調査 ・ 民生委員およびケアマネジャーによる小地域ごとの話し合いを計画し、地域ごとの強みやニーズの共有を実施 ○ 生活支援 ・ 介護事業所スタッフのごみ出しボランティア活動についての支援 ○ 啓発 ・ 相模大野図書館と連携し、館内スタッフに向けた認知症サポーター養成講座を実施。また、認知症家族の会や学生、地域包括支援センターと連携し、館内に「情報発信コーナー」設置による認知症に関する啓発 ・ 認知症カフェ「さがっばと Teatime」運営者と連携し、オンライン会議によるミーティングや研修会の支援	3 回 (うち 1 回は 大野南地区 2 包括圏域 合同部会)
22	上鶴間	○ 調査 ・ 谷口自治会、中和田自治会、南新町自治会に向けて、生活の困りごとについてアンケート調査を実施 ○ 買い物支援 ・ 中和田地区の一部で移動販売の運行実施の支援 ○ 担い手づくり ・ 谷口自治会の一部で「ぞうきんプロジェクト」を先行的に実施	6 回 (うち 1 回は 大野南地区 2 包括圏域 合同部会)
23	麻 溝	○ 外出支援 ・ 令和 2 年 1 月の麻溝地区内アンケートに基づき、麻溝地区内の「古山台地区」「当麻・市場・芹沢地区」の 2 地区を試行事業実施地区に指定 ・ 古山台地区自治会総会にて、移動モデル事業の説明と利用希望者及びボランティア支援者の募集を実施。利用希望者 6 人、ボランティア支援者 3 人登録 ・ 古山台地区に関しては、コロナ感染状況推移をみながら、施設の感染の可能性が下がり次第実施の予定 ・ 当麻・市場・芹沢地区自治会長に移動モデル事業について説明。利用対象者への周知方法について意見交換を行い、担当民生委員と周知方法について調整 ○ 高齢者の居場所づくり「あさみぞ・いやし倶楽部」を計画。コロナ感染状況推移をみながら、試行実施に向けて調整 ○ 感染に配慮したつながりづくりとして、オンライン認知症カフェを開催	2 回

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
24	新 磯	○ 医療機関の把握 ・ コロナ禍でも地域の方に活用いただける情報（地域の医療機関の情報等）を発信するため、「あらいそ知ってお得な情報紙」を発行 ○ 移動支援の仕組みづくり ・ 運転講習会を実施し、移動支援において担い手の確保を行った。 ○ 昨年に引き続き、介護保険事業所等連絡会による徒歩での外出支援として、ベンチの設置やトイレ利用のマークの掲示を行った。 ○ 新磯健康づくりポイント事業の実施 ・ 地域の店舗等の協力によるスタンプラリーの実施を通して、徒歩での外出による新たな地域の発見と健康増進を図った。	5 回
25	相模台 第 1	<相模台第 1・相模台第 2 合同> ○ 居場所づくり ・ 外出時の休息に活用する「ベンチ」の事業所、店舗等の設置促進（設置趣旨表示「ステッカー」配布、ベンチマップの作成等） ・ 高齢者の運動や外出促進を目的とした健康講座及びウォーキングラリーの開催 ○ 部会情報提供 ・ 「地域づくり部会だより」の自治会配布	合同 4 回
26	相模台 第 2	<相模台第 1> ○ 見守り活動 ・ 「気になる人」の早期発見・情報共有のための「チェックリスト」を基に民生委員と情報交換を行い、活用方法を検討 ○ 居場所の確保 ・ 誰でもふらっと立ち寄れる居場所としての「ふらっと相模台」を再開 <相模台第 2> ○ 口腔ケアの地域啓発活動 ・ 相模原市歯科医師会と連携し、健口カレンダーを作成し配布した。 ○ 買物支援 ・ ニーズのある相模台団地、御園南地区にて野菜販売会を実施した。御園南地区では地区内の障がい事業所に協力いただきマルシェを開催した。	相模台第 1 3 回 相模台第 2 3 回
27	相武台	○ 調査 ・ ケアマネジャーを対象とした地域の高齢者の困りごとアンケートを実施 ○ 活動方針検討 ・ 第 7 期保健福祉計画の振り返りとそれを基にした第 8 期計画の方針を検討 ・ 具体的事例から地域課題の仕組みづくりの検討	4 回
28	東 林 第 1	<東林第 1> ○ 見守り ・ 地域から孤立しがちな方の発掘として、住民の関心が高い健康・服薬管理に関する相談会の企画。企画に向け、地区内薬局のワーキンググループを設置した。 ・ マンション居住高齢者の見守り・サポート活動の仕組みづくりとして、マンション自治会を対象としたアンケート調査を実施。支援期間とのつながり希薄との課題抽出を行った。 ○ コロナ禍の事業検討 ・ コロナ禍で引きこもりがちな高齢者の外出支援として、屋外で実施可能な事業を検討。地区内の商店街と協働する野菜の販売会を検討 ○ 生活支援 ・ 訪問型シニアサポート活動団体の運営、活動支援	4 回

	圏域名	内 容	地域づくり 部 会 開 催 回 数
29	東 林 第 2	<東林第2> ○ 担い手 ・ 『引きこもりの子どもを抱え、孤立する高齢者世帯』の理解と長期化・深刻化しないための啓発講座の企画 ○ 生活支援 ・ 訪問型シニアサポート活動団体の運営、活動支援 ・ ゴミ出しや買い物支援を行う、新たな生活支援団体立ち上げの検討 ○ 見守り ・ 散歩が困難となった高齢者の犬の散歩支援を通して、地域から孤立しがちな高齢者の見守りを実施	3 回

29 女性のつながりサポート事業

(受託) 11,784,000 円

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で「社会との絆・つながりが薄くなり不安を抱える女性」や「寄り添った支援が必要にも関わらず支援が届いていない女性」を対象に、生理用品等の配布を契機とした支援窓口へのつなぎ及び各区における臨時相談会を実施することにより、対象となる女性の社会との絆・つながりづくりを目的に取り組んだ。

1) 実施状況

ア 生理用品等の窓口配布状況

配布場所	25ヶ所
配布件数	1,387 件



イ 大学連携に伴う生理用品配布状況

大 学 名	件 数
女子美術大学	800 件
北里大学	2,400 件
和泉短期大学	400 件
相模女子大学	400 件
麻布大学	600 件
小 計	4,600 件



ウ 臨時相談会の開催状況

回数	区	開催年月日	時 間	会 場	生理用品 配布	相談 件数
1	緑区	令和3年11月17日(水)	16時～20時	J R 橋本駅ペデストリアンデッキ及び 橋本公民館	68 件	16 件
	[相談内容] ・コロナワクチン接種の副作用で、半年間熱や皮膚炎症に悩まされ、原因が分からない。〈他 15 件〉					
2	南区	令和3年11月20日(土)	13時～17時	小田急相模大野駅ペデストリアンデッ キ及びユニコムプラザさがみはら等	119 件	12 件
	[相談内容] ・居住地の住所地に訳があり、児童手当が停止され困っている。(30 代)。〈他 11 件〉					
3	中央区	令和3年11月26日(金)	16時～20時	J R 相模原駅ペデストリアンデッキ及 び相模原市民ギャラリー	16 件	4 件
	[相談内容] ・働いていたスポーツクラブの閉店と腫瘍が見つかり、手術後の生活が不安である。(50 代) 〈他 3 件〉					
4	緑区	令和3年12月3日(金)	正午～16時	津久井総合事務所	4 件	4 件
	[相談内容] ・コロナ禍で収入が減り、自分と娘へ夫からの DV があり、離婚調停をしたが離婚出来ずどうしたら夫から逃げら れるか。助けて欲しい。 〈他 3 件〉					
5	中央区	令和3年12月18日(土)	13時～17時	JR 淵野辺駅北口ペデストリアンデッキ 及び大野北公民館	121 件	10 件
	[相談内容] ・幼年期から母の虐待、離婚した夫からの DV で精神的ダメージを負い、働きたいが就労できない。(30 代) 〈他 9 件〉					
6	南区	令和3年12月27日(月)	16時～20時	小田急相模大野駅ペデストリアンデッ キ及びユニコムプラザさがみはら	54 件	13 件
	[相談内容] ・夫が生活費を入れてくれない。7歳の子どもの暴言で昨日も自殺未遂をしたほど悩んでいる。(30 代) 〈他 12 件〉					
7	中央区	令和4年1月29日(土)	13時～17時	光が丘公民館	16 件	15 件
	[相談内容] ・長年夫から暴力 DV を受けているが別れられなくて困っている。(60 代) 〈他 14 件〉					

回数	区	開催年月日	時 間	会 場	生理用品 配布	相談 件数
8	南区	令和4年2月8日(火)	13時～17時	小田急相模原駅ペデストリアンデッキ 及びおださがプラザ	47件	15件
	[相談内容] ・娘が幼稚園の事務職で採用されたが、コロナ禍で保育助手など雇用条件と違う労働を強いられて悩んでいる。 〈他 14 件〉					

エ 随時相談会の開催状況

- 生理用品配布時及びお問い合わせフォームによる相談：614 件
- 随時相談：29 件
- 意見・要望等

- ・生理用品の配布は嬉しかった。必ず必要になるので継続してほしい。（20代）
- ・子どもが成長して制服が着られなくなった。学校の制服リサイクルではサイズが無く、調達（購入）できていない。パートの日数（掛け持ち3か所）が減り収入減だが食費を優先している。学校が無い日は子どもが3食食べるため、給食のありがたさが身に染みる。（40代）
- ・子どもを安心して遊ばせられる場所が少ない気がするので、子育てサロン等の開催がありがたく思う。（40代）
- ・女性一人で生活しており、万が一の事態があった場合に見守りや安否確認をお願いしたい。先のことを考えると不安になるばかりです。（50代）

③ あんしんセンター事業

従来から取り組む権利擁護事業に併せて、成年後見制度の利用促進事業の強化を図ることを目的に、「さがみはら成年後見・あんしんセンター」にて、権利擁護に係る総合的な事業推進に取り組んだ。

1 法人後見事業

(自主) 3,729,032 円

認知症、知的障がい、精神障がいなどにより判断能力が不十分な方を対象に、家庭裁判所の審判による成年後見人等として、被後見人等の財産管理及び身上保護等の法定後見業務を行った。

初回相談・継続相談件数

内 容	本事業の利用に関するもの					合 計
	認知症 高齢者等	障がい者			その他 不 明	
		知 的	精 神	身 体		
初回相談	一件	1 件	2 件	一件	一件	3 件
継続相談	一件	件	3 件	一件	一件	3 件

支援件数

内 容	件 数
訪問等による直接支援	420 件
訪問以外の相談、連絡、調整等	1,622 件

受任件数（令和4年3月末）

類 型	認 知 症 高齢者等	障がい者		合 計
		知 的	精 神	
後 見	9 件	2 件	2 件	13 件
保 佐	2 件	6 件	4 件	12 件
補 助	一件	1 件	一件	1 件
合 計	11 件	9 件	6 件	26 件

権利擁護事業審査会の開催

回 数	内 容
年 4 回	契約締結能力の審査、契約者等への処遇方法等について検討 ※令和3年7月19日（月）第2回権利擁護事業審査会

○ 職員体制：法人後見専門員 3 人

2 日常生活自立支援事業

(補助・自主) 28,496,215 円

判断能力が不十分な障がい者・高齢者のために、福祉サービスの契約手続や日常生活費の出し入れ、公共料金等の支払代行、定期預金通帳などの重要書類の預りを行った。また、毎月第4火曜日に、弁護士による人権や財産に関する権利擁護相談を実施した。

相談援助件数

内 容	本事業の利用に関するもの					合 計
	認知症 高齢者等	障がい者			その他 不 明	
		知 的	精 神	身 体		
問合せ	22 件	2 件	10 件	2 件	2 件	38 件
初回相談	105 件	13 件	40 件	7 件	8 件	173 件
相談援助	3,869 件	664 件	4,477 件	179 件	52 件	9,241 件
合 計	3,996 件	679 件	4,527 件	188 件	62 件	9,452 件

利用契約者数（令和4年3月末）

区 分	認知症 高齢者等	障がい者			その他	合 計
		知 的	精 神	身 体		
① 福祉サービス利用援助・ 日常的金銭管理サービス	73 人	26 人	73 人	10 人	1 人	183 人
② 書類等預かりサービス	6 人	9 人	7 人	1 人	－人	23 人
③ ①②サービスの両方契約者 (利用者数は、重複)	6 人	4 人	7 人	1 人	－人	18 人
実利用者数(令和4年3月末)	73 人	31 人	73 人	10 人	1 人	188 人

権利擁護相談件数

内 容		高齢者	障がい者			合 計
			知 的	精 神	身 体	
財産関係	相続・遺言	18 件	1 件	－件	－件	19 件
	財産侵害	2 件	－件	1 件	－件	3 件
	財産管理	2 件	－件	1 件	－件	3 件
	金銭・消費契約	5 件	－件	－件	－件	5 件
	その他	3 件	－件	1 件	－件	4 件
人間関係	婚姻・離婚	1 件	－件	1 件	－件	2 件
	家族・親類	1 件	－件	－件	－件	1 件
労働関係	職場内の人間関係	1 件	－件	－件	－件	1 件
生活関係	施設処遇等の問題	1 件	－件	－件	－件	1 件
	日常生活の問題	1 件	－件	－件	－件	1 件
権利擁護関係	成年後見制度全般	3 件	1 件	3 件	－件	7 件
	法定後見制度	1 件	－件	－件	－件	1 件
	任意後見制度	1 件	－件	－件	－件	1 件
その他		－件	－件	－件	－件	－件
合 計		40 件	2 件	7 件	－件	49 件

権利擁護事業審査会の開催（再掲）

回 数	内 容
年 5 回	契約締結能力の審査、契約者等への処遇方法等について検討 ※令和 3 年 9 月 6 日（月）第 3 回権利擁護事業審査会は、開催を中止し書面での審査に変更

権利擁護事業内部審査会の開催

回 数	内 容
年 10 回	審査会で諮るべき事案に当てはまらない新規案件について、契約締結能力の審査、契約者等への処遇方法等の検討

連絡会等の開催

会議名	回 数	内 容
日常生活自立支援事業担当者・専門員・生活支援員連絡会	年 2 回	日常生活自立支援事業について連絡・周知・情報交換
日常生活自立支援事業担当者・生活支援員連絡会	年 3 回	日常生活自立支援事業について連絡・周知・情報交換

普及啓発事業等

区 分	内 容
あんしんセンター事業説明会	あんしんセンターの利用促進を目的に、地域包括支援センター開催の研修会等の中で事業説明を実施
あんしんサポーター制度の実施	登録者 7 人（市民後見人養成研修修了者が対象） 養成研修修了者の意欲等の向上を図り、日常生活自立支援事業利用者の社会関係をより豊かにすることを目的に、成年後見人等を受任するまでの間、権利擁護に係るボランティアとして活動する場を提供 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動は、中止

○ 職員体制：あんしんセンター専門員 6 人、あんしんセンター生活支援員 9 人

3 成年後見制度利用促進事業

（受託）5,263,793 円

福祉・法律の専門職等の権利擁護に関わる関係団体とのネットワーク構築を進め、成年後見制度の周知・普及啓発、相談支援等により制度の利用支援を図った。特に 10 月からは、成年後見制度の利用促進を目指す中核機関との位置づけとなり、市民の身近な相談機関（一次相談機関）の支援を行う「二次相談機関」として、研修会の開催や受任調整の取組など新たな事業を開始した。

1) 成年後見制度に関する相談の実施

職員対応による一般相談

認 知 症 高齢者等	障がい者			その他	合 計
	知 的	精 神	身 体		
271 件	55 件	48 件	9 件	32 件	415 件

相談の内訳

相談種類		合 計
後見制度 利用前相談	制度内容	168 件
	申立て手続	162 件
	講座・研修依頼	3 件
	その他	7 件
	小 計	340 件

後見制度 利用後相談	財産管理	23 件
	身上保護	5 件
	その他	16 件
	小計	44 件
その他		31 件
合計		415 件

2) 成年後見専門相談の実施

月 4 回、親族後見人や福祉施設等の職員として成年後見制度に関わる方を対象に、司法書士等による成年後見制度や成年後見人等の業務に関する相談を実施

○ 相談件数：53 件

3) 成年後見制度等の説明会への講師等派遣

地域で開催される講座や説明会に専門職講師の派遣等を行い制度の普及啓発を行った。

○ 対応実績：5 件

4) 成年後見制度に関する無料相談会の実施

市民を対象に各区にて成年後見制度に関する専門職による無料相談会を実施した。

無料相談会開催実績

	開催区	開催月日	開催場所	参加者数
第 1 回	中央区	令和 3 年 10 月 9 日（土）	あじさい会館	9 人
第 2 回	緑 区	令和 3 年 11 月 23 日（火・祝）	緑区合同庁舎	2 人
第 3 回	南 区	令和 3 年 12 月 18 日（土）	南保健福祉センター	8 人
合 計				19 人

無料相談会対応専門職実績

	専門職					合計
	弁護士	司法書士	行政書士	社会福祉士	税理士	
第 1 回	2 人	1 人	2 人	1 人	1 人	7 人
第 2 回	人	1 人	1 人	人	人	2 人
第 3 回	1 人	1 人	3 人	2 人	1 人	8 人
合 計	3 人	3 人	6 人	3 人	2 人	17 人

5) 専門家チームの利用

センターに寄せられる相談に対し、市が委嘱する困難事例対応専門家チーム（弁護士、司法書士）の助言を得て対応を行った。（相談件数：1件）

6) 成年後見人等候補者選定のための受任調整

後見人等の候補者の選定に悩むケースについて相談を受け付け、適宜会議の開催等を経て候補者の推薦を行った。

① 成年後見人等候補者選定のための受任調整会議の開催

	日にち	議題
第1回	10月22日（金）	委員長の互選について 会議の運営方法について 後見人等候補者の選定について～模擬検討～
第2回	12月1日（水）	後見人等候補者の選定について～模擬検討～
第3回	3月2日（水）	NO. R3-002 について

② 受任調整件数：2件

7) 人材育成事業

主に一次相談機関を担う各機関の職員を対象に、センター職員による相談上のノウハウについての伝達を目的とした勉強会・説明会の開催や、専門職・学識経験者を講師とした研修会を開催した。

日にち	研修タイトル・テーマ	対象	参加数
10月19日（火）	権利擁護支援のネットワーク構築に向けた研修・説明会	一次相談機関職員	32人
11月30日（火）	行政職員向け成年後見制度勉強会	行政関係各課担当職員	15人
12月14日（火）	成年後見制度利用促進に向けた研修会 （任意後見制度の理解）	一次相談機関職員	21人
2月4日（金）	成年後見制度 勉強会	障害相談支援キーステーション職員他	8人
2月の1か月間	成年後見制度利用と意思決定支援	一次相談機関職員 居宅介護支援員 他	23人

4 市民後見人養成事業

(受託) 9,096,575 円

成年被後見人等に対して、地域の身近な存在である市民が社会生活の中で培った経験を生かした後見活動を担えるように市民後見人養成研修を実施した。

1) 市民後見人養成研修

ア 6期生対象：市民後見人養成研修説明会の実施

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止

イ 6期生対象：市民後見人等選考委員会の実施（選考委員7人）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止

ウ 5期生対象：市民後見人養成研修「現場研修」の実施

開催月日		受講者数	修了者数
現場 研 修	令和3年5月28日（金）	7人	7人
	～令和4年2月25日（金）		
	<計16日間>		

エ 5期生対象：市民後見人養成研修修了式

令和4年3月15日（火）

2) 市民後見人受任調整会議

ア 市民後見人受任調整会議の実施

開催月日	案 件	候補推薦者
令和3年8月4日（水）	新規1人	1人
令和4年1月11日（火）	新規1人 交代1人	2人

イ 市民後見人の受任状況

類 型	令和2年度末 受任件数	新規受任件数	受任終了件数	令和3年度末 受任件数
後 見	13人	1人	2人	12人
保 佐	2人	一人	1人	1人
補 助	1人	一人	一人	1人
合 計	16人	1人	3人	14人

3) 市民後見人への相談及び事務支援

- 市民後見人受任後の活動について、後見事務支援及び相談援助を実施
- 受任後1年間は、毎月面談を実施

4) 市民後見人養成研修修了者へのフォローアップ研修（1期～4期生）

開催月日		参加人数	内 容
第1回	令和4年1月14日（金）	20人	「相続の基礎知識と成年後見における死後事務」 講師 弁護士
第2回	令和4年2月8日（火）	24人	「生活保護制度について」 講師 市職員（相模原市中央生活支援課）
第3回	令和4年3月5日（土）	18人	「市民後見人の活動の実際と意義」 講師 教授、市民後見人

5 身元保証・死後事務支援に向けた取組について

「第9次地域福祉活動計画」に基づき、各種団体や関係機関等の参加の下、支援の在り方や新たな仕組みの構築に向けた具体的な検討等を行った。

- プロジェクトチームの設置：令和3年4月～令和4年3月

局内における合意形成、職員意識の啓発、事業実施に向け円滑に進めることを目的にプロジェクトチームを設置し、検討を進めた。

- 委員会の設置：令和3年7月～11月の間

外部委員による「身元保証・死後事務支援等検討委員会」を設置し、本会が取り組む事業の概要について検討を行った。

開催月日		内 容	備 考
第1回	令和3年7月1日(木)	1) 正副委員長の互選について 2) 本委員会について 3) 各団体の取組等について 4) 身元保証・死後事務支援の状況について	
第2回	令和3年8月5日(木)	1) 前回の協議内容と身元保証・死後事務における現状と課題について 2) 他市社協の取組例について 3) 本会としての取組方向性について ①新たな事業の取組について ②ネットワークの構築について	書面開催
第3回	令和3年10月11日(月)	1) 前回の協議内容及び意見について 2) 事業の展開イメージについて 3) 事業Ⅰの内容について 4) 民間事業者とのネットワークについて	
第4回	令和3年11月22日(月)	1) 前回会議の結果について ①新たな事業について ②ネットワークについて 2) 啓発的な取り組みについて 3) 本会が取り組む身元保証・死後事務支援について	

④ 在宅福祉推進事業

1 ひとり暮らし高齢者等給食サービス事業

(受託・自主) 53,460,368 円

調理・買物が困難な在宅のひとり暮らし高齢者等に週4回(月・火・木・金)を上限に給食を配食することにより、食の確保、安否確認、孤独感の解消を図った。

利用者の状況					調理食数(実施日数 204 日)	
地 域	登録者	実利用者	新 規	廃 止	地 域	調理食数
緑 区	105 人	82 人	17 人	54 人	緑 区	12,998 食
中央区	64 人	60 人	7 人	29 人	中央区	11,831 食
南 区	92 人	83 人	10 人	26 人	南 区	15,848 食
合 計	261 人	225 人	34 人	109 人	合 計	40,677 食

利用者宅へ給食を手渡しで届ける市民参加による「配食協力員」は、中央区及び南区の一部地区で活動

配食協力員等の状況	
区 分	内 容
配食協力員	70 人
配食拠点	15 か所

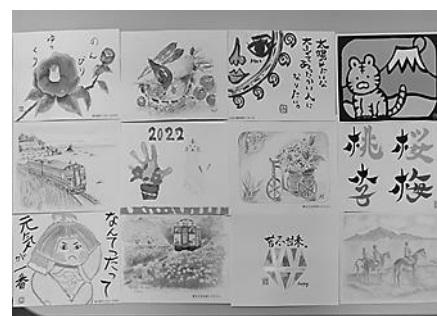
1) 行事食の実施

クリスマス給食の実施

クリスマスに給食の配食に合わせて、「令和4年カレンダー」を贈呈。カレンダーは、地域のボランティアから、約500点の絵画や書道等の作品が提供された。提供された作品をカレンダーに貼り付ける作業等を、いるかバンク登録者や就労訓練事業参加者の協力を得た。

2) 職員体制

職 名	人 数
ふれあいサービス相談員	6 人



3) 配食協力員通信等の発行

配食協力員に向け、活動の心構えや注意事項、行事食の報告等を発信

配食協力員通信等の発行状況

発行月等	内 容	配布対象
令和3年6月	・食中毒予防について	利用者・配食協力員
7月	・熱中症予防について	
12月	・感染症対応について ・悪天候、災害時の給食サービスの中止について	

4) その他

- ・緊急事態宣言の発令に伴い、配食協力員による配食活動を中止。その間、調理業者に配食を依頼した。(8月～10月)

2 福祉用具無料貸出事業

(自主) 40,315 円

一時的に福祉用具を必要とする市民を対象に福祉用具の貸出しを行った。

福祉用具貸出状況

区 分	障がい者	高齢者	傷病	福祉団体	その他	合計
貸出件数	32 件	727 件	334 件	2 件	7 件	1,102 件
貸出点数	33 点	729 点	337 点	3 点	15 点	1,117 点

3 ファミリー・サポート・センター事業

(補助・受託) 18,685,097 円

安心とゆとりをもって子育てができるよう、会員制による有償の子育て支援事業を行った。ひとり親で児童扶養手当受給世帯には、謝礼の半額助成を実施。

福祉的な課題を抱える世帯が増加傾向にあり、他機関・事業との連携のもと支援を行った。

また、入会説明会については、緊急事態宣言の発令に伴い、一部中止とした。なお、利用会員登録希望者に対しては、個別に事業説明を行い、登録を受け付ける等の対応をした。

会員登録状況

区 分	会員数
利用会員	2,337 人
援助会員	669 人
両方会員	66 人

活動状況

各種活動実績	
利用実人数	351 人(両方会員 10 人含む。)
援助会員活動実人数	162 人(両方会員 8 人含む。)
利用(活動)回数	6,995 回

※ 両方会員：利用会員、援助会員両方に登録している人

会員拡充の取組

区 分	開催回数	参加者数等
入会説明会	34 回(毎月 3 区開催)	445 人
援助会員講習会	3 回(3 区開催)	55 人

会員研修等の取組

区 分	開催回数等	内 容	参加者数等
援助会員随時研修会	6 回(3 区開催)	小児救命救急講習 (講師：相模原市赤十字奉仕団)	32 人
会報「子育てサポート さがみはら」発行	第 34 号 (令和 3 年 10 月)	・新型コロナウイルス感染症予防対策について ・援助会員講習会等募集 ・センターからのお願い	3,500 部

活動内容

区 分	年 間 累計件数	月平均 件 数
保育所・幼稚園の送迎、登降園前後の預かり	2,029 件	169 件
学校の送迎及び登校前、帰宅後の預かり等	1,138 件	95 件
児童クラブの送迎、前後の預かり	573 件	48 件
子どもの習い事等の場合の援助	1,157 件	96 件
その他	2,098 件	175 件
合 計	6,995 件	583 件

利用会員世帯年齢別児童数

年 齢	人 数	年 齢	人 数
0 歳	125 人	7 歳	334 人
1 歳	226 人	8 歳	271 人
2 歳	302 人	9 歳	222 人
3 歳	348 人	10 歳	172 人
4 歳	386 人	11 歳	150 人
5 歳	357 人	12 歳	99 人
6 歳	366 人	13 歳以上	42 人
		合 計	3,400 人

ひとり親世帯等助成実績(登録者：28人 活動者：28人)

年間延べ利用者数	年間延べ活動者数	助成件数	助成時間	助成金額
93 人	95 人	749 件	1,856 時間	684,850 円

幼児教育・保育無償化実績

利用証明書発行件数
20 件

職員体制

職 名	人 数
ファミリー・サポート・センター推進員	1 人
ファミリー・サポート・センターアドバイザー	4 人

4 生活福祉資金の貸付事務

(受託) 47,302,600 円

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて減収した世帯への特例貸付を行った。また、低所得世帯及び障がい者等の世帯に対し、民生委員・児童委員の援助のもとで、福祉資金や教育支援資金などの貸付けを行った。

貸付決定の状況

資金名	資金の内容	件 数	貸付金額
福祉資金	障がいのある方の自動車購入に係る資金、エアコン設置に係る資金、転居に係る資金等	19 件	3,772,000 円
緊急小口資金	緊急かつ一時的な生計維持困難世帯への生活資金	0 件	0 円
教育支援資金	高等学校・短期大学・大学・専門学校の授業料等の資金	15 件	8,566,000 円
総合支援資金	失業者等、生活の立て直しのために必要な資金	0 件	0 円
合 計		34 件	12,338,000 円

貸付決定の状況

資金名	資金の内容	相談件数	申請件数
緊急小口資金（特例）	新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収し、緊急・一時的に生活費が必要な世帯への資金。	13,538 件	2,353 件
総合支援資金（特例） 延長・再貸付け等含む	新型コロナウイルス感染症の影響を受け減収し、生活再建までの間の生活費が必要な世帯への資金。	23,773 件	4,006 件
合 計		37,311 件	6,359 件

5 生活資金一時貸付事業

(補助・自主) 509,903 円

他からの借入が困難で、一時的に生活が困窮している世帯に対し、生活資金の貸付けを行い、世帯の経済的支援を行った。

貸付決定の状況

資金名	貸 付 金		償 還 金	
	件 数	貸付金額	件 数	償還金額
生活資金	6 件	291,000 円	109 件	504,750 円
修学資金	－件	－円	1 件	10,000 円
高校等通学資金	－件	－円	10 件	5,000 円
合 計	6 件	291,000 円	120 件	519,750 円

1) 滞納者に対する督促等の状況

- 督促状の発送：2 回
- 督促者数：延べ 297 件

2) 借受滞納者償還免除（欠損処分）

- 借受人が死亡、又は最終償還期限到来後 10 年以上経過しても借受人より償還させることが困難である人等
- 対象者：8 人
- 免除額：458,000 円

運用状況

令和 2 年度末	令和 3 年度			
年度末貸付金 A	貸付金 B	償還金 C	償還免除額 D	年度末貸付金 A+B-C-D
9,932,250 円	291,000 円	519,750 円	458,000 円	9,245,500 円

6 要援護世帯生活資金貸付事業

(自主) 5,096,000 円

生活保護の申請に至った要援護世帯へ、生活保護費支給日までのつなぎ資金として生活資金の貸付けを行った。(貸付限度額 5 万円)

- 貸付件数：371 件

7 ひとり親家庭高等職業訓練促進資金貸付事業

(自主) 10,986,882 円

高等職業訓練促進給付金を活用して養成機関に在学し、就職に有利な資格の取得を目指すひとり親家庭の親に対し、高等職業訓練促進資金の貸付けを行った。

○ 貸付件数

- ・ 入学準備金：14 件 6,900,000 円
- ・ 就職準備金：8 件 1,600,000 円

8 社会福祉事業振興資金貸付事業

(自主) 490,691,020 円

民間社会福祉事業の振興策として社会福祉施設の建設資金等貸付金の償還管理等を行った。

○ 令和3年度末借入施設数：15 施設

○ 貸付金元金残高：428,967,000 円

法人名	貸付日	貸付年度	貸付金額	償還回数	償 還 額 内 訳	
					償還済額	元金残高
(福)せんだん保育園	H16. 4. 27	H15	17,200,000 円	18/20	15,480,000 円	1,720,000 円
(福)県央福祉会	H16. 5. 11	H15	41,100,000 円	18/20	36,990,000 円	4,110,000 円
(福)菊清会	H17. 5. 31	H16	64,398,000 円	17/20	54,741,000 円	9,657,000 円
(福)さがみの福祉会	H19. 2. 27	H18	50,500,000 円	15/20	37,875,000 円	12,625,000 円
(福)大地の会	H19. 5. 30	H18	26,300,000 円	15/20	19,725,000 円	6,575,000 円
(福)ムクドリ福祉会	H20. 4. 25	H19	21,300,000 円	14/20	14,910,000 円	6,390,000 円
(福)相模福祉村	H20. 4. 30	H19	119,700,000 円	14/20	83,790,000 円	35,910,000 円
(福)東の会	H20. 5. 8	H19	49,900,000 円	14/20	34,930,000 円	14,970,000 円
(福)小山地域福祉会	H20. 5. 16	H19	88,500,000 円	14/20	61,950,000 円	26,550,000 円
(福)新日本学園	H20. 5. 16	H19	170,000,000 円	14/20	119,000,000 円	51,000,000 円
(福)清菊会	H21. 4. 14	H20	94,400,000 円	13/20	61,360,000 円	33,040,000 円

(福)東香会	H21. 4. 24	H20	52,800,000 円	13/20	34,320,000 円	18,480,000 円
(福)直源会	H23. 4. 18	H22	116,300,000 円	11/20	59,060,000 円	57,240,000 円
(福)蓬萊会	H24. 6. 6	H23	170,000,000 円	10/20	85,000,000 円	85,000,000 円
(福)報徳会	H24. 6. 15	H23	131,400,000 円	10/20	65,700,000 円	65,700,000 円
合 計			1,213,798,000 円		784,831,000 円	428,967,000 円

⑤ 住民参加推進事業

1 ふれあいサービス(有料家事援助サービス)事業

(自主) 2,354,450 円

高齢者・障がい者世帯等の自立支援を目的に、会員制による家事援助・介助サービスを行った。

相談件数の状況

区 分	高齢	障がい	母子	父子	傷病	出産	その他	団体	合 計
緑 区	13 件	8 件	0 件	0 件	3 件	4 件	6 件	0 件	34 件
中央区	54 件	8 件	1 件	1 件	3 件	7 件	3 件	2 件	79 件
南 区	102 件	15 件	2 件	0 件	13 件	21 件	3 件	0 件	156 件
合 計	169 件	31 件	3 件	1 件	19 件	32 件	12 件	2 件	269 件

個人会員

区分 年齢	協力会員	利用会員
30 歳未満	一人	2 人
30～39	一人	5 人
40～49	7 人	3 人
50～59	13 人	3 人
60～69	24 人	5 人
70～79	27 人	30 人
80～89	6 人	72 人
90 歳以上	一人	23 人
合 計	77 人	143 人

活動状況

区 分	年間累計	月平均
利用人数	936 人	78 人
活動人数	568 人	47 人
活動延べ回数	2,390 回	199 回
活動延べ時間数	2291 時間	190.9 時間

利用会員利用理由別内訳

区 分			人 数
個 人 会 員	高 齢	身体障がい	6 人
		知的障がい	－人
		精神障がい	2 人
		認知症	4 人
		傷病	44 人
		その他	70 人
	小 計		126 人
	障がい		8 人
	母子		－人
	父子		－人
	傷病		4 人
	出産		5 人
	その他		－人
合 計			143 人

協力会員入会説明会

緑区		中央区		南区		合計	
参加者数	登録者数	参加者数	登録者数	参加者数	登録者数	参加者数	登録者数
3 人	3 人	3 人	3 人	19 人	12 人	25 人	18 人

※毎月 3 区で開催

職員体制

職 名	人 数
ふれあいサービス相談員	5 人

2 要介護認定調査事業

(受託) 38,700,200 円

介護保険に係る要介護認定調査（新規及び区分変更）を受託し、介護保険サービスの質向上を図った。また、相模原市からの介護認定調査依頼件数の大幅増に対応するなど、自主財源確保に努めた。

受託件数

委託元	件 数
相模原市	5,000 件
他市町村	26 件

職員体制

職 名	人 数
介護認定調査支援員	1 人
介護認定調査員	27 人

3 介護支援ボランティア事業

(受託) 4,205,535 円

登録した 65 歳以上の市民がボランティア活動を行った実績に基づきポイントを付与し、報償金を交付する介護支援ボランティア事業（さがみはら・ふれあいハートポイント事業）の一部を受託し、ボランティア活動の推進を図った。

1) 業務内容

- ア 介護支援ボランティアの登録
- イ 介護支援ボランティア活動手帳の発行
- ウ 介護支援ボランティア活動の調整
- エ 介護支援ボランティア活動の研修

登録者数

区 分	登録者数
令和 2 年度末	1,356 人
新 規	33 人
取 消	126 人
令和 3 年度末	1,263 人

2) 登録説明会の開催

ボランティアセミナーとの同時開催 3 回

4 福祉従事者メンタルヘルス相談事業

(委託) 2,095,732 円

新型コロナウイルス感染症拡大時においても、事業を継続している介護サービス事業所、障がいサービス事業所及び保育所等の職員に対し、精神的負担の軽減を図るため、メンタルヘルス相談窓口を設置した。また、相談結果を匿名化・分析して、福祉事業所の各法人にフィードバックして運営支援を行った。

1) 業務内容

- ア 普及啓発
- イ 受付
- ウ 総合分析レポートの作成、フィードバック

2) メンタルヘルス相談対応

相談件数（延べ）

区分	新規	継続	キャンセル	合計
件数	22 件	92 件	10 件	124 件

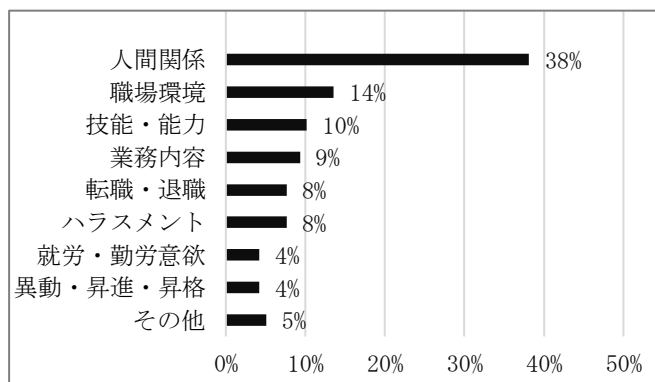
相談者年間実人数

人数
57 人

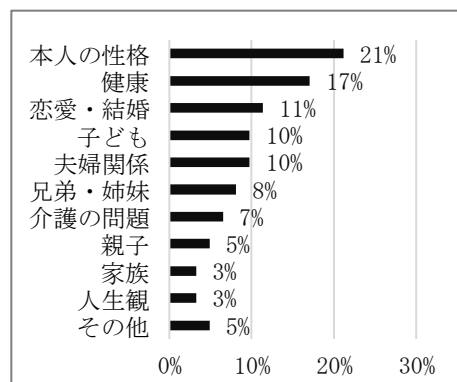
相談者年齢（実人数）

区分	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	不明	合計
件数	10 人	9 人	24 人	6 人	7 人	1 人	57 人

職場内における相談内容



職場外における相談内容



⑥ 市民福祉会館運営事業

(受託・自主) 107,545,985 円

1 あじさい会館管理運営事業

1) 開催日数及び利用状況等

高齢者や障がいのある方、母子・父子世帯及び各種団体、一般市民へ各施設の貸出しを行った。

区 分	日数等
開館日数	296 日
利用料収入	7,910,052 円

高齢者等福祉施設の利用状況 ※利用は、昼間（午前・午後）のみ

区 分 室 名	団 体			個 人
	件 数	回 数	利用者数	利用者数
第 1 和室	392 件	548 回	5,376 人	
第 2 和室	98 件	121 回	507 人	
第 3 和室	98 件	121 回	501 人	
大和室				1,943 人
ボランティア活動室	460 件	511 回	4,860 人	
合 計	1,048 件	1,301 回	11,244 人	1,943 人

一般利用施設の利用状況

区 分 室 名		利用件数	利用回数	利用者数
ホール		160 件	275 回	25,167 人
展示室	第 1 展示室	325 件	400 回	9,835 人
	第 2 展示室	273 件	339 回	6,170 人
	小 計	598 件	739 回	16,005 人
研修室		344 件	372 回	4,732 人
講習室		240 件	295 回	3,216 人
和 室	大和室	2 件	2 回	25 人
	第 1 和室	6 件	6 回	130 人
	第 2 和室	18 件	18 回	116 人
	第 3 和室	4 件	4 回	22 人
	小 計	30 件	30 回	293 人
合 計		1,372 件	1,711 回	49,413 人

2) 防災訓練の実施

災害時における会館利用者の安全確保のため、会館に勤務する職員等を対象に防災訓練等を実施した。なお、「防災訓練」、「消防総合訓練」いずれの訓練についても、会館外壁等改修工事により訓練会場確保が困難であったこと、また新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、訓練マニュアル等資料の館内関係各課等職員への供覧により実施した。

防災訓練の実施状況

開催月日	内 容
令和4年2月10日(木)	あじさい会館消防総合訓練 通報連絡、初期消火、避難誘導、救護訓練 参加者：館内関係各課等職員
2月14日(月)	あじさい会館防災訓練 館内消防設備機能習得及び防災訓練を実施 参加者：館内関係各課等職員

3) あじさい会館利用促進事業・福祉啓発事業等の実施

会館1階ロビーを活用した「パネル展示」、障がい者施設と協働で実施する「ワークショップ」、「ロビーコンサート」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止とし、ロビーパネル展のみ実施した。

また乳幼児から高齢者まで誰もが気軽に楽しめる「クラシックコンサート」、終活をテーマにした「福祉講座」も同様の理由で中止とした。

ロビーパネル展（主なもの）

展示期間	内 容
令和3年4月2日(金) ～4月30日(金)	相模原市自閉症児・者作品展
5月10日(月) ～5月18日(火)	民生委員・児童委員活動パネル展
7月6日(火) ～7月31日(土)	NPO団体の活動紹介パネル展
9月13日(月) ～9月30日(木)	世界アルツハイマーデー啓発パネル展
10月10日(日) ～10月16日(土)	ボランティア・市民活動啓発パネル展
11月4日(木) ～11月11日(木)	介護写真展

4) あじさい会館の日・世界アルツハイマーデー普及啓発事業

世界アルツハイマーデー月間中（9月）の開催を予定していた催事は、緊急事態宣言発令に伴うあじさい会館の休館措置により中止とし、月間中は1階ロビーでの「世界アルツハイマーデー啓発パネル展示」のみの開催とした。会館が認知症関係家族会と共催する「認知症啓発映画会」は日程を変更して次のとおり実施した。

開催月	内 容
令和4年3月13日（日）	認知症啓発映画会 ・上映作品「99歳 母と暮らせば」 ・トークイベント話者：谷光章監督、若年性認知症家族の会「じゅりの会」代表 浜井秀子氏 ・共催：友知草の会、じゅりの会、ふじの介護者の会

2 あじさい会館南分室（南保健福祉センター内）

開催日数及び利用状況等

高齢者や障がいのある方、母子・父子世帯及び各種団体、一般市民へ各施設の貸出しを行った。

区 分	日数等
開館日数	293 日
利用料収入	91,685 円

高齢者等福祉施設の利用状況

室 名	利用件数	利用回数	利用者数
高齢者交流室	461 件	465 回	6,554 人
情報交換ルーム	202 件	229 回	2,216 人
ボランティア活動室	260 件	282 回	2,202 人
合 計	923 件	976 回	10,972 人

一般利用施設利用状況

室 名	利用件数	利用回数	利用者数
高齢者交流室	40 件	40 回	337 人
情報交換ルーム	5 件	5 回	67 人
合 計	45 件	45 回	404 人

3 あじさい会館緑分室（緑区合同庁舎内）

開催日数及び利用状況等

高齢者や障がいのある方、母子・父子世帯及び各種団体、一般市民へ各施設の貸出しを行った。

区 分	日数等
開館日数	302 日
利用料収入	96,100 円

高齢者福祉施設等利用状況

室 名	利用件数	利用回数	利用者数
高齢者交流室	448 件	460 件	4,605 人
情報交換ルーム	176 件	203 件	1,598 人
ボランティア活動室	136 件	139 件	768 人
合 計	760 件	802 件	6,971 人

一般利用施設利用状況

室 名	利用件数	利用回数	利用者数
高齢者交流室	47 件	47 件	860 人
情報交換ルーム	38 件	38 件	323 人
合 計	85 件	85 件	1,183 人

⑦収益事業

⑦ 収益事業

1 飲料水等販売・自動販売機等運営事業

（自主）13,291,070 円

飲料水等の販売及び自動販売機売上手数料収入等の収益を社会福祉事業の財源として活用した。

1) 社会福祉事業への繰入金支出額：12,029,933 円

2) 市内公共施設への自動販売機設置

○ 69 施設 95 台（うち、地域貢献型電光掲示板機能付自動販売機 46 台）